

科目名	社会福祉論A		科目コード	W31023	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング	W-PPSW1-01H	30時間							
区分	社会福祉系系列科目 社会福祉士指定科目	必修	担当者名	丸山 龍太			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。また、社会福祉の問題と社会構造の関係の視点から現代社会問題について理解する。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解することができる。また、社会福祉の問題と社会構造の関係の視点から現代社会問題について理解することができる。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	社会福祉の原理(1)			社会福祉の歴史、思想・哲学について学ぶ。						
第2回	社会福祉の原理(2)			社会福祉の理論、社会福祉の原理と実践、社会福祉学の構造と特徴について学ぶ。						
第3回	社会福祉の歴史(1)			政策史、実践史、発達史等の観点から社会福祉の歴史について学ぶ。また、日本と欧米の比較史の観点についても学ぶ。						
第4回	社会福祉の歴史(2)			日本の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。慈善事業・博愛事業・社会事業・社会福祉事業・社会福祉について。						
第5回	社会福祉の歴史(3)			欧米の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。救貧法・慈善事業・博愛事業・社会事業・社会保険・福祉国家・福祉社会について。					社会福祉の原理・歴史についての小テスト	
第6回	社会福祉の思想と哲学			社会福祉の思想と哲学を学ぶ。社会福祉の思想と哲学・人間の尊厳・社会主義・平和主義について。					レポート課題提示	
第7回	社会福祉の理論(1)			戦後社会福祉の展開と社会福祉理論、政策論と運動論と経営論、欧米の社会福祉の理論について学ぶ。						
第8回	社会福祉の理論(2)			社会福祉の論点について、とくに公私関係・効率性と公平性・普遍主義と選別主義・自立と依存の観点から学ぶ。						
第9回	社会福祉の理論(3)			社会福祉の論点について、とくに自己選択・自己決定とパターナリズム、参加とエンパワーメント、ジェンダー、社会的承認の観点から学ぶ。						
第10回	社会問題と社会構造(1)			貧困・孤立・失業・要援護性・偏見と差別・社会的排除等に代表される社会問題と社会福祉の関りを学ぶ。						
第11回	社会問題と社会構造(2)			少子高齢化・格差社会・グローバル化・価値観の変化等に代表される社会問題の構造的背景について学ぶ。					レポート課題提出	
第12回	社会福祉政策の基本的な視点			社会問題と福祉政策、福祉政策の理念、福祉政策と社会保障、福祉レジームと福祉政策について学ぶ。					社会福祉理論・政策に関する小テスト	
第13回	社会福祉政策におけるニーズとは			ニーズの種類と内容、ニーズの種類と資源、ニーズの把握方法について学び、社会福祉の対象とニーズについても考える。						
第14回	福祉政策におけるニーズと資源の関係			社会資源の種類と内容、把握方法、開発方法について学び、福祉政策におけるニーズと資源の関係についても考える。						
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめをおこなう。						
評価 方法 及び 評価 基準	出席が2/3以上に満たない場合は、評価の対象としない。講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、途中小テストを実施する。また、講義中盤でレポート課題を課す。これらの項目が講義への参加態度の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。レポート課題は、TEAMS上で提示し、TEAMSにより提出する。									
事前事後 学習	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は福田幸夫・長岩嘉文編(2021)『社会福祉の原理と政策』弘文堂(ISBN 978-4-335-61209-1)、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	社会福祉論B		科目コード	W31024	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-02H		30時間				
区分	社会福祉系科目 社会福祉士指定科目	必修	担当者名	工藤 久			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。また、福祉サービスの供給と利用の過程について理解すると共に、福祉政策の国際比較の視点から日本の福祉政策の特性について理解する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。									
到達 目標	社会福祉の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解できる。また、福祉サービスの供給と利用の過程について理解できる。さらに、福祉政策の国際比較の視点から日本の福祉政策の特性についても理解できる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容						備 考
第1回	福祉政策の構成要素(1)			福祉政策の構成要素とその役割・機能について学ぶ。また、政府・市場・事業者・国民との関係性についても学ぶ。						
第2回	福祉政策の構成要素(2)			措置制度と契約制度、多元化する福祉サービス提供方式について学ぶ。						
第3回	福祉政策の過程(1)			政策決定と実施及び評価について学ぶ。また、福祉政策の方法と手段についても学ぶ。						
第4回	福祉政策の過程(2)			福祉政策の政策評価と行政評価について学ぶ。また、福祉政策と福祉計画の関係性についても学ぶ。						
第5回	福祉政策の動向(1)			社会福祉法の特徴と近年の法改正の動向を学ぶ。また、地域包括包括ケアシステムについても学ぶ。						
第6回	福祉政策の動向(2)			地域共生社会について学ぶ。また、多文化共生と持続可能性(SDGs等)と社会福祉の関係性についても学ぶ。						第1回～5回までの範囲小テスト
第7回	福祉政策の課題			日本の福祉政策の課題について考える。						
第8回	福祉政策と関連施策			保健医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策、経済政策と福祉政策の関係性について学ぶ。						
第9回	福祉サービスにおける供給部門(1)			公的部門と民間部門の違い、公的部門の特徴について学ぶ。						
第10回	福祉サービスにおける供給部門(2)			民間部門(営利・非営利)、ボランティア部門、インフォーマル部門の特徴を学ぶ。また、部門間の調整と連携と協働についても学ぶ。						
第11回	福祉サービスにおける供給課程(1)			公私(民)関係、再分配と割当について学ぶ。						第6回～10回までの範囲小テスト
第12回	福祉サービスにおける供給課程(2)			市場・準市場、福祉行財政、福祉計画、福祉開発について学ぶ。						
第13回	福祉サービスにおける利用過程			スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップについて学ぶ。						
第14回	福祉政策の国際比較			国際比較の視点を学ぶ。とくに、欧米・東アジアの福祉政策の特徴を学ぶ。						
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめをおこなう。						
評価 方法 及び 評価 基準	出席が2/3以上に満たない場合は、評価の対象としない。講義への参加態度40%、定期試験60%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度40%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は福田幸夫・長岩嘉文編(2021)『社会福祉の原理と政策』弘文堂、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	キリスト教社会福祉論		科目コード	W31002	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-03H		30時間				
区分	社会福祉系科目	必修	担当者名	柘植 秀通			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕									
	<p>社会福祉の中には本来、思想性が強く必要とされます。それは、人間をどう見るか、人間の幸福とはいかにあるべきものか、さらに、そのような人間にいかに向き合っていくかといった宗教性を持った課題です。これを、弘前学院が掲げるキリスト教主義の視点から考え、特にキリスト教と社会福祉の本質的結びつきについて考える。</p> <p>特に、福祉実践の基本となる「愛」とは何か。それを、現実はどう対応させていけばいいか、ということを考えていくことがこの教科の課題であり、特に聖書にもとづいて福祉をどう考えていくかを学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連する。</p>									
到達 目標	聖書にもとづく愛にたつ実践とは何かを学び、現実の実践の中でその愛をあらわすことができるようになる。ということが最終目標ですが、この授業においてはその基礎として、まず聖書に示されたキリストの愛について知り、実践にいかすにはどうすればいいかを考える者となることが目標です。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	オリエンテーション		授業の概要に関する解説					講義		
第2回	キリスト教に関する基本的理解		キリスト教とはなんであるか、ということに関する基本的問い直し。					講義		
第3回	社会福祉に関する基本的理解 1		社会福祉とは何かについて、演習を通しての理解					演習		
第4回	社会福祉に関する基本的理解 2		演習を通して学んだことの発表と、そのことに関する講義					演習・講義		
第5回	社会福祉のキリスト教的基礎		キリスト教の他者理解と、他者の存在への関わりに関する基礎的学び。					講義・グループワーク		
第6回	キリスト教的基礎に則った実践者		マザーテレサを例として、他者存在への関わりのある方について考える。					映像視聴・講義		
第7回	愛に関する講義		キリスト教的な愛とは何かについて、マザーテレサを引きながら、さらに深く考える。					講義		
第8回	神の愛と人の愛に関する講義		神の愛と人間の愛との相違について考察し、人間の愛がいかに神の愛となるかについて学ぶ。					講義		
第9回	人の価値に関する講義		全ての人の価値の源泉、人はなぜ愛されるに足る存在であるかのキリスト教的根源についての考察。					講義・グループワーク		
第10回	人の尊厳が台無しにされている現状の認識 1		難民の映像を通して、いかに尊厳ある存在である人が、無価値なものとして扱われてきたか、また扱われているかの現状認識					映像視聴・講義		
第11回	人の尊厳が台無しにされている現状の認識 2		個人に焦点を当て、貧困を通して如何に人の尊厳が傷つけられているかを学ぶ。					映像視聴・講義		
第12回	召命について		悲惨な現状を認識したうえで、自分が、どのような場・人の支援に召されているかという概念について考え、召されるということについて講義考察を行う。					講義		
第13回	キリスト教社会福祉の実践家について		キリスト教社会福祉の実践家を例を挙げて考察する。					映像視聴・講義		
第14回	召命について 2		自分がどのような場・実践に召されているかを、ツールを使って考察し、自らの召命について考える。					演習		
第15回	人間の尊厳についての考察		自分が出ていく場で、どのような人と会っても、その人の価値・無限の尊厳を信じることのできる根本について考察する。					演習		
評価 方法及び 評価 基準	授業への参加度50% レポート50%によって行う。 レポートは、参考文献を明示することはもちろん重要だが、それ以上に自らがどのように考えるかを明示できることを重視する。									
課題等	随時、授業において提供し、次回に提出するようにする。									
事前事後 学習修 教材 教科書 参考書	次の週の内容について、個々学習する。また、随時すべき学習を指定する。特に、次回に向かって1時間程度毎週沈黙思考する時間を設けるべき。 聖書（新共同訳） 978-4-8202-1204-1									
留意点	授業の中での発言を重視し、参加度を重要視する。									

科目名	ソーシャルワーク総論A		科目コード	W31005	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-04H	時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目	必修	担当者名	小川 幸裕				授業 形態	講義	単独
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。									
到達 目標	①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。									
	②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。									
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。										
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(1)			社会福祉士及び介護福祉士法による社会福祉士の定義、義務、法制度の成立の背景、法制度見直しの背景について学ぶ。				講義		
第2回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(2)			精神保健福祉士による精神保健福祉士の定義、義務、法制度の成立の背景、法制度見直しの背景について学ぶ。				講義、グループワーク		
第3回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ(3)			社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性について学ぶ。				講義 レポート課題		
第4回	ソーシャルワークの概念			ソーシャルワークの定義、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について学ぶ。				講義、グループワーク		
第5回	ソーシャルワークの原理(1)			社会正義、人権尊重について学ぶ。				講義、グループワーク		
第6回	ソーシャルワークの原理(2)			集団的責任、多様性の尊重について学ぶ。				講義		
第7回	ソーシャルワークの理念(1)			当事者主権、尊厳の保持について学ぶ。				講義		
第8回	ソーシャルワークの理念(2)			権利擁護、自立支援について学ぶ。				講義		
第9回	ソーシャルワークの理念(3)			ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーションについて学ぶ。				講義		
第10回	ソーシャルワークの形成過程(1)			事前組織協会、セツルメント運動について学ぶ。				講義 レポート課題		
第11回	ソーシャルワークの形成過程(2)			医学モデルから生活モデルへの転換、ソーシャルワークの統合化について学ぶ。				講義		
第12回	ソーシャルワークの倫理(1)			専門職倫理の概念について学ぶ。				講義、グループワーク		
第13回	ソーシャルワークの倫理(2)			倫理綱領とは、ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領について学ぶ。				講義		
第14回	ソーシャルワークの倫理(3)			精神保健福祉士の倫理綱領、倫理的ジレンマについて学ぶ。				講義、グループワーク		
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめをおこなう。				講義、グループワーク		
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加態度10%、レポート30%、定期試験60%で評価する。定期試験では、【知識・理解】の観点から到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出し評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から、リアクションペーパー、小テスト、レポート提出を求める。リアクションペーパーは、講義の理解度および疑問点についての記載を課し、評価する。配点は1回1点とし10回の記載を課す(各項目において半分以上記載されていない場合は評価対象としない)。レポートは、ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートを課し、評価する。									
課題等	フィードバックとしてリアクションペーパーに記載された疑問についてコメントを返す。									
事前事 後学修	講義時にて次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。 準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材 教科書 参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)『ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版 ISBN 978-4-8058-8241-2									
留意点	1. 教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 2. 社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。									

科目名	ソーシャルワーク総論B		科目コード	W31006	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
	科目ナンバリング		W-PPSW1-05H	時間	30時間					
区分	社会福祉系科目	必修	担当者名	小川 幸裕			授業形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。</p>									
到達目標	<p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解することができる。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解することができる。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解することができる。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解することができる。</p>									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲			ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について学ぶ。				講義		
第2回	社会福祉士の職域(1)			行政関係、福祉関係(高齢者領域、障害者領域、児童・母子領域、生活困窮者自立支援・生活保護領域)について学ぶ。				講義、グループワーク		
第3回	社会福祉士の職域(2)			医療関係、教育関係、司法関係、独立型事務所等と社会福祉士の職域拡大について学ぶ。				講義 レポート課題		
第4回	福祉行政における専門職			福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司等について学ぶ。				講義		
第5回	民間の施設・組織における専門職			施設長、生活相談員、社会福祉協議会の職員、地域包括支援センターの職員、スクールソーシャルワーカー、医療層ソーシャルワーカー等について学ぶ。				講義		
第6回	諸外国の動向			欧米諸国の動向、その他諸外国における動向について学ぶ。				講義		
第7回	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象			ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味、ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象について学ぶ。				講義		
第8回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク			ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味、ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象について学ぶ。支援の実践について学ぶ。				講義		
第9回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意味と内容			多機関による包括的支援体制、その実際について学ぶ。				講義、グループワーク		
第10回	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(1)			フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制について学ぶ。				講義、グループワーク		
第11回	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(2)			ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。				講義、グループワーク		
第12回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(1)			多職種連携及びチームアプローチの意義について学ぶ。				講義 レポート課題		
第13回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(2)			機関・団体間の合意形成と相互関係について学ぶ。				講義、グループワーク		
第14回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(3)			利用者、家族の参画について学ぶ。				講義、グループワーク		
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめをおこなう。				講義、グループワーク		
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加態度10%、レポート30%、定期試験60%で評価する。定期試験では、【知識・理解】の観点から到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出し評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から、リアクションペーパー、レポート提出を求める。リアクションペーパーは、講義の理解度および疑問点についての記載を課し、評価する。配点は1回1点とし10回の記載を課す(各項目において半分以上記載されていない場合は評価対象としない)。レポートは、ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートを課し、評価する。</p>									
課題等	フィードバックとしてリアクションペーパーに記載された疑問についてコメントを返す									
事前事後学修	講義時にて次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。 準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材教科書参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)『ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版 ISBN 978-4-8058-8241-2									
留意点	<p>1. 教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 2. 社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。</p>									

科目名	社会福祉発達史 A		科目コード	W31009	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-06	時間	30時間				
区分	社会福祉系系列科目	選択	担当者名	松本 郁代				授業 形態	講義	単独
	教職科目（高一種【公民】）	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>前近代からの日本における社会福祉のあゆみを概観する。そのうえで、慈善事業やその組織化から社会福祉の段階に至るまでの流れについて、高齢者・障害者・医療などの各領域に踏み込んで、詳細に講義する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>社会福祉専門職になる際に、社会福祉の歴史を知ることによって、過去の総括を行うと共に、未来の社会福祉像を見通すことができる。パースペクティブで実証的な視点をもつ社会科学としての社会福祉学を修得する一助とする。</p>									
到達目標	<p>1. 社会福祉の歴史を学ぶことによって、現在日本の社会福祉の状況や到達点について、科学的に認識し、社会や時代の流れの中で、社会福祉実践について見通しをもてるようになること。</p> <p>2. 日本の社会福祉の歴史を学ぶことによって、先人の努力を謙虚に学び、社会福祉の発展に寄与するためには、どのようなしたらよいのかを考察すること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	講義計画、社会福祉の歴史の全体像			日本における社会福祉の歴史の流れを説明する						
第2回	前近代における社会福祉の歴史			日本における前近代の社会福祉の歴史を概観する						
第3回	恤救規則			明治維新と恤救規則				文献複写		
第4回	特別救護立法			恤救規則以外の救済制度				文献複写		
第5回	救済事業の展開			救済事業における二つの流れ、窮民救済				文献複写		
第6回	慈善事業			近代日本における慈善事業				文献複写		
第7回	児童保護事業			明治期の育児施設について				文献複写		
第8回	熊本バンド・「北海道バンド」			感化事業・感化院創設・監獄改良事業				文献複写		
第9回	感化救済事業			感化救済事業における実践				文献複写		
第10回	救済と慈善の思想			慈恵主義、慈善事業思想の諸相				文献複写		
第11回	救貧法制構想			恤救規則の改定案				文献複写		
第12回	慈善事業の発展			慈善事業の本格化				文献複写		
第13回	児童保護事業の展開			児童保護事業における諸実践				文献複写		
第14回	養老事業の形成			高齢者領域の取り組み				文献複写		
第15回	慈善事業・慈善組織化の時代のまとめ			前期中の講義で取り上げた内容の整理						
評価方法及び評価基準	客観式・短答式試験のみ。合格点に達しない場合、毎回の小テストの点数を10点まで加算するが、加点の上限は10点まで。									
課題等	毎回指示を出す。文献複写をしたら、辞書を引いて読んでおくこと									
事前事後学修	配布資料を講義前に、辞書を引いて読んでおくこと。本学図書館における文献検索の方法を習得しておくこと。 生江孝之（1931）『日本基督教社会事業史』教文館、五味百合子編著（1973）『社会事業に生きた女性たち』ドメス出版などを使用する。尚、五味編集のものは、正篇・続篇・続々篇があり、各々その都度指示する。これらは、図書館で利用すること。									
教材教科書参考書	池田敬正（1994）『日本における社会福祉のあゆみ』法律文化社 ISBN:4-589-01811-x 室田保夫編著（2006）『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房 ISBN:4-623-0459-6									
留意点	私語・遅刻厳禁 欠席した場合には、次の日の正午までに配布物を受け取りにくること。 国語辞典・漢和辞典を持参すること。									

科目名	社会福祉発達史B		科目コード	W31010	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-07		30時間				
区分	社会福祉系列科目	選択	担当者名	松本 郁代				授業 形態	講義	単独
	教職科目（高一種【公民】）	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>前近代からの日本における社会福祉のあゆみを概観する。そのうえで、慈善事業やその組織化から社会福祉の段階に至るまでの流れについて、高齢者・障害者・医療などの各領域に踏み込んで、詳細に講義する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>社会福祉専門職になる際に、社会福祉の歴史を知ることによって、過去の総括を行うと共に、未来の社会福祉像を見通すことができる。パースペクティブで実証的な視点をもつ社会科学としての社会福祉学を修得する一助とする。</p>									
到達目標	<p>1. 社会福祉の歴史を学ぶことによって、現在日本の社会福祉の状況や到達点について、科学的に認識し、社会や時代の流れの中で、社会福祉実践について見通しをもてるようになること。</p> <p>2. 日本の社会福祉の歴史を学ぶことによって、先人の努力を謙虚に学び、社会福祉の発展に寄与するためには、どのようにしたらよいのかを考察すること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	慈善事業の組織化と社会化			慈善事業がもつ社会的役割と中央慈善協会結成以降の組織化について				文献複写		
第2回	社会事業①			社会調査と社会問題論				文献複写		
第3回	社会事業②			社会連帯論				文献複写		
第4回	社会事業③			社会事業理論の展開				文献複写		
第5回	社会事業④			救済事業調査会				文献複写		
第6回	社会事業⑤			社会事業行政				文献複写		
第7回	社会事業⑥			方面委員・済世顧問制度				文献複写		
第8回	社会事業⑦			経済保護事業				文献複写		
第9回	社会事業⑧			児童保護の進展、医療保護とセツルメント				文献複写		
第10回	社会事業⑨			救護法の成立				文献複写		
第11回	戦時厚生事業①			戦時厚生事業期について				文献複写		
第12回	戦時厚生事業②			戦時下の健民健兵政策、厚生事業理論				文献複写		
第13回	戦後日本の社会福祉①			戦後社会と福祉改革				文献複写		
第14回	戦後日本の社会福祉②			社会福祉諸法の成立				文献複写		
第15回	戦後日本の社会福祉③			社会福祉の本格的形成				文献複写		
評価方法及び評価基準	客観式・短答式試験のみ。合格点に達しない場合、毎回の小テストの点数を10点まで加算するが、加点の上限は10点まで。									
課題等	毎回指示を出す									
事前事後学修	配布資料を講義前に、辞書を引いて読んでおくこと。本学図書館における文献検索の方法を習得しておくこと。生江孝之（1931）『日本基督教社会事業史』教文館、五味百合子編著（1973）『社会事業に生きた女性たち』ドメス出版などを使用する。尚、五味編集のものは、正篇・続篇・続々篇があり、各々その都度指示する。これらは、図書館で利用すること。									
教材教科書参考書	池田敬正（1994）『日本における社会福祉のあゆみ』法律文化社 ISBN:4-589-01811-x 室田保夫編著（2006）『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房 ISBN:4-623-0459-6									
留意点	私語・遅刻厳禁 欠席した場合には、次の日の正午までに配布物を受け取りにくること。 国語辞典・漢和辞典を持参すること。									

科目名	社会保障論A		科目コード	W31011	単位数 時 間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW1-08						
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。また、現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解すると共に、社会保障制度の体系と概要について基礎的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解することができる。また、現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解すると共に、社会保障制度の体系と概要について基礎的な理解ができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	現代社会における社会保障制度の現状(1)			人口動態の変化、少子高齢化、人口減少社会、少子高齢化と社会保障制度の関係性について学ぶ。						
第2回	現代社会における社会保障制度の現状(2)			経済環境の変化、低成長社会と社会保障の持続可能性について学ぶ。						
第3回	現代社会における社会保障制度の現状(3)			労働環境の変化、正規雇用と非正規雇用、男女雇用機会均等法、障害者雇用促進法、ワークライフバランスについて学ぶ。						
第4回	社会保障の概念や対象及びその理念(1)			障害者雇用促進法と範囲について学ぶ。						
第5回	社会保障の概念や対象及びその理念(2)			社会保障の役割と意義、セーフティネットについて学ぶ。						
第6回	社会保障の概念や対象及びその理念(3)			社会保障の理念について学ぶ。						
第7回	社会保障の概念や対象及びその理念(4)			社会保障の対象について学ぶ。						
第8回	社会保障の概念や対象及びその理念(5)			社会保障制度の展開、これまでの社会保障制度の歴史的変遷について学ぶ。						
第9回	社会保障と財政(1)			社会保障の財源、一般会計、地方経費、社会保険料、利用者負担、財政調整について学ぶ。						
第10回	社会保障と財政(2)			社会保障給付費、給付の内訳、給付動向について学ぶ。						
第11回	社会保障と財政(3)			国民負担率について学ぶ。						
第12回	社会保障と財政(4)			社会保障と経済について学ぶ。						
第13回	社会保険と社会扶助の関係(1)			社会保険の概念と範囲について学ぶ。						
第14回	社会保険と社会扶助の関係(2)			社会扶助の概念と範囲について学ぶ。						
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめをおこなう。						
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	棕野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障 第14版』有斐閣アルマ ISBN:978-4641220935									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	社会保障論B		科目コード	W31012	単位数 時 間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	W-PPSW1-09							
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会保障制度の体系と概要について理解する。また、公的保険制度と民間保険制度の関係性について理解する。さらに、諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	社会保障制度の体系と概要について理解することができる。また、公的保険制度と民間保険制度の関係性について理解することができる。さらに、諸外国における社会保障制度の概要について理解することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	公的保険制度と民間保険制度の関係(1)		公的保険と民間保険の現状、公的保険と民間保険の主な種類を学ぶ。							
第2回	公的保険制度と民間保険制度の関係(2)		公的保険と民間保険の違い、それぞれの特徴について学ぶ。							
第3回	社会保障制度の体系(1)		医療保険制度等の概要、制度の目的、対象、給付内容について学ぶ。							
第4回	社会保障制度の体系(2)		前回講義内容を踏まえ、医療保険制度等の財源構成と公費負担医療について学ぶ。							
第5回	社会保障制度の体系(3)		介護保険制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第6回	社会保障制度の体系(4)		年金制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第7回	社会保障制度の体系(5)		労災保険制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第8回	社会保障制度の体系(6)		雇用保険制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第9回	社会保障制度の体系(7)		生活保護制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第10回	社会保障制度の体系(8)		社会手当制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第11回	社会保障制度の体系(9)		社会福祉制度の概要、制度の目的、対象、給付内容、財源構成について学ぶ。							
第12回	諸外国における社会保障制度(1)		先進諸国の社会保障制度の歴史と概要について学ぶ。							
第13回	諸外国における社会保障制度(2)		東アジア地域を含む諸外国における社会保障制度の概要を学ぶ。							
第14回	諸外国における社会保障制度(3)		社会保障制度の国際比較、とくに高齢化と社会保障の給付規模、社会保障給付費の内訳について比べながら学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	棕野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障 第14版』有斐閣アルマ ISBN:978-4641220935									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	精神保健学A		科目コード	W31015	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-10	時間	30時間				
区分	社会福祉系系列科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	講義	単独
	精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健は、こころの健康に関する学問的並びに実践的活動である。こころの不調・不健康の兆しを早期に発見し、こころの健康を守り、こころの病を予防することを目的としている。本講義ではこころの健康を体系的に捉え、その要因、対応策や予防策など支援方法について考える。また、その視点には、社会環境を含め、ライフサイクルにおける対象者の精神保健の課題とアプローチについても考えていくことができるよう概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	精神保健学Aでは、広義の精神保健とし、一般の人々も含めたこころの健康の保持・増進について学び、また、精神保健福祉士を目指す人々に限らず、精神保健の基本的な視点を理解し、自らのメンタルヘル스에役立てられるよう知識、援助方法を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方〔1〕			①精神保健の動向、②精神保健活動の三つの対象					講義	
第2回	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方〔2〕			①精神の健康に関する心的態度、②生活と悪習慣(アディクション)					講義	
第3回	家族に関する精神保健の課題と支援〔1〕			①家族関係における暴力と精神保健					講義	
第4回	家族に関する精神保健の課題と支援〔2〕			②出産・育児をめぐる精神保健					講義	
第5回	家族に関する精神保健の課題と支援〔3〕			③介護めぐる精神保健					講義	
第6回	家族に関する精神保健の課題と支援〔4〕			④社会的ひきこもりをめぐる精神保健					講義	
第7回	家族に関する精神保健の課題と支援〔5〕			⑤家族関係の課題					講義	
第8回	家族に関する精神保健の課題と支援〔6〕			⑥グリーフケア、⑦精神保健支援を担う機関					講義	
第9回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔1〕			①学校教育における精神保健的課題					講義	
第10回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔2〕			②教員の精神保健、③関与する専門職と関係法規					講義	
第11回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔3〕			④スクールソーシャルワーカーの役割					講義	
第12回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔4〕			⑤学校保健にかかわる社会資源					講義	
第13回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ〔1〕			①現代日本の労働環境、②産業精神保健とその対策					講義	
第14回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ〔2〕			③職場のメンタルヘルスのための相談					講義	
第15回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ〔3〕			④職場内の問題を解決するための機関及び関係法規					講義	
評価方法及び評価基準	<p>学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。</p> <p>小テスト80%、レポート20%の割合で評価する。</p> <p>・小テストは、7回、15回に実施し、その合計点で評価する。</p> <p>・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。</p>									
課題等	メンタルヘルスにかかわるDVDを視聴し、レポート作成後に次の講義でフィードバックし理解を深める。									
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、厚生労働省の患者調査、精神保健医療福祉白書などを調べ補足する。									
教材教科書参考書	<p>【教科書】最新 精神保健福祉士養成講座2『現代の精神保健の課題と支援』中央法規 ISBN978-4-8058-8253-3</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2023〔令和5年版〕』、2023</p> <p>【参考書】いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2024』、2023 7月発売予定</p>									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健学B		科目コード	W31016	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-11	時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目	選択	担当者名	葛西 久志				授業 形態	講義	単独
	精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(DAPT、自殺予防、貧困問題、その他)と、精神保健に関する発生予防と対策(アルコール問題、うつ病と自殺防止、認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害時の精神保健など)そして地域精神保健に関する諸活動と専門職種、諸外国の精神保健活動の現状と対策について概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	精神保健学Bでは、狭義の精神保健とし医療・福祉・司法などの課題とアプローチ方法について学び、また、アルコール問題、薬物依存、うつ病と自殺防止、認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害などに対する現状と対策やそれらに対する精神保健福祉士の役割についてを学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①			こころのケアチーム 支援者のケア DPAT 犯罪被害者の支援				視聴覚(スライド)使用		
第2回	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②			自殺予防 ゲートキーパー その他				視聴覚(スライド)使用		
第3回	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③			貧困問題と精神保健 社会的孤立				視聴覚(スライド)使用		
第4回	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ④			反復違法行為 司法領域との連携				視聴覚(スライド)使用		
第5回	精神保健に関する発生予防と対策①			アルコール問題に対する対策 薬物依存対策				視聴覚(VTR)使用		
第6回	精神保健に関する発生予防と対策②			うつ病と自殺防止対策				視聴覚(スライド)使用		
第7回	精神保健に関する発生予防と対策③			認知症高齢者に対する対策				視聴覚(VTR)使用		
第8回	精神保健に関する発生予防と対策④			社会的ひきこもりに対する対策				視聴覚(VTR)使用		
第9回	精神保健に関する発生予防と対策⑤			災害時の精神保健に対する対策				視聴覚(VTR)使用		
第10回	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題①			関係法規 人材育成				視聴覚(スライド)使用		
第11回	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題②			古典的偏見 制御可能型偏見				視聴覚(スライド)使用		
第12回	精神保健に関する専門職種①			精神保健福祉センター 保健所 市町村				視聴覚(スライド)使用		
第13回	精神保健に関する専門職種②			当事者会 家族会 市民団体				視聴覚(スライド)使用		
第14回	諸外国の精神保健活動の現状と対策①			世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動、他				視聴覚(スライド)使用		
第15回	諸外国の精神保健活動の現状と対策②			諸外国の精神保健医療の実情、他				視聴覚(スライド)使用		
評価方法及び評価基準	学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。レポート課題(20%)定期試験(80%)で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したかを評価する。									
課題等	各講義終了後にリアクションペーパーにコメントを記載する。講義後の理解度を確かめるとともに、さらに理解を深めたことや疑問に思ったことを述べてもらい常に能動的な姿勢で講義に望む習慣を身につけたい。									
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、厚生労働省の患者調査、精神保健医療福祉白書などを調べ補足する。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> 最新 精神保健福祉士養成講座 2現代の精神保健の課題と支援 中央法規 ISBN978-4-8058-8253-5 スライド資料や新聞記事等の資料配布 									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神医学 A		科目コード	W31013	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-14.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	相馬 信 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 精神疾患総論として、精神医学の歴史から、代表的な精神疾患の成因、症状、診断法、治療法について説明する。また、精神科医療における人権擁護としては、入院形態の課題、移送制度、インフォームドコンセント、地域移行の課題について説明する。さらに、精神科医療機関における治療構造として、外来から入院、在宅医療等について説明する。最後には、精神科医療と他機関との連携について概説する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。									
到達 目標	国は医療提供体制の確保を図るための基本指針に精神疾患を加えることにした。都道府県は従来の「4大疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）」に加え、精神疾患を追加して「5大疾病」として医療計画を策定することとなる。また精神科病院の長期入院を解消し、社会復帰を促進させることが大きな政策課題の一つとなっている。このような課題に取り組む上で、コア科目である精神医学の歴史をはじめ、精神疾患の理解、人権擁護のあり方、治療構造の理解、精神科医療機関との連携等について理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	精神医学概論〔1〕			欧米の精神医療の歴史						
第2回	精神医学概論〔2〕			日本の精神医療の歴史						
第3回	神経の生理解剖（1）			神経の解剖						
第4回	神経の生理解剖			神経の生理						
第5回	精神障害の理解（1）			精神障害の概念						
第6回	精神障害の理解（2）			精神疾患の成因と分類						
第7回	症状と診断（1）			精神症状と状態像						
第8回	症状と診断（2）			診断の手順と方法						
第9回	症状と診断（3）			心理検査						
第10回	症状と診断（4）			国際疾病分類 I C D、診断・統計マニュアル D S M						
第11回	治療における人権問題（1）			精神科治療と入院形態						
第12回	治療における人権問題（2）			インフォームドコンセント						
第13回	治療における人権問題（3）			隔離、拘束						
第14回	治療における人権問題（4）			精神科救急医療システム						
第15回	まとめ、試験			質疑応答						
評価 方法 及び 評価 基準	学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神疾患の症状、治療などについてどの程度理解したか評価する。									
課題等	精神障害者の疾病受容について難病患者の事例をVTRで視聴し、「疾病受容の困難性について」をテーマとしたレポート作成後、次の講義の中で提出されたレポートを紹介しながらまとめフィードバックする。									
事前事後 学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神医学事典、精神医学ハンドブックなどを調べ補足する。									
教材 教科書 参考書	新・精神保健福祉士養成講座 第1巻 『精神疾患とその治療』 第2版 中央法規出版 ISBN:978-4805853122									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神医学B		科目コード	W31014	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-15.						
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	和田 一丸			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 主な精神疾患（統合失調症、うつ病、不安症、摂食障害、認知症など）に関して、その成因、症状、診断、治療を中心に講義を行う。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。									
到達 目標	統合失調症やうつ病などの精神医学領域における様々な疾患および障害について、その臨床的特徴、診断および治療法を中心に理解を深めることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	統合失調症 1			統合失調症の概念と原因						
第2回	統合失調症 2			統合失調症の症状						
第3回	統合失調症 3			統合失調症の診断と治療						
第4回	気分障害(うつ病と双極性障害) 1			気分障害(うつ病と双極性障害) の概念と原因						
第5回	気分障害(うつ病と双極性障害) 2			気分障害(うつ病と双極性障害) の症状と治療						
第6回	心因と関係した精神疾患 1			不安症などを含む神経症性障害の概念・症状						
第7回	心因と関係した精神疾患 2			神経症性障害の診断・治療						
第8回	摂食障害・睡眠障害			神経性やせ症・神経性過食症・ナルコレプシーなどについて						
第9回	性行動の障害・パーソナリティ障害			性同一性障害・境界性パーソナリティ障害などについて						
第10回	発達障害・児童期の精神疾患			知的障害・自閉スペクトラム症などについて						
第11回	精神作用物質による精神・行動の障害			アルコール依存症などについて						
第12回	認知症			アルツハイマー型認知症などについて						
第13回	器質性精神障害			様々な器質性・症状性精神障害について						
第14回	てんかん			てんかんの原因・症状・診断・治療						
第15回	精神医療と社会			精神医療と社会との関わりについて						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度30%、定期試験70% 精神疾患についての基本的理解を試す試験問題を出し、精神医学に関する一般的知識のみならず答案の論理性を評価するとともに、授業への参加度等を考慮して総合的に成績を評価する。									
課題等	臨床精神医学に関するレポートなど課題を課す場合がある。									
事前 事後 学修	臨床精神医学に関する参考図書等を紹介する場合がある。									
教材 教科書 参考書	「最新 精神保健福祉士養成講座 1 精神医学と精神医療」 中央法規出版 ISBN 978-4-8058-8252-8									
留意点										

科目名	児童福祉論		科目コード	W31030	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-12	時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目	選択	担当者名	柘植 秀通			授業 形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>子ども家庭福祉の現状をはじめ、歴史・施策などについて学ぶ。基本的には、講義であるが、随時演習を交える。特に、国家試験模擬問題をグループに分かれ、解いていく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2と4に関連する。</p>									
到達 目標	子ども家庭福祉の現在までの発展の経緯、諸施策、制度の在り方について、基本的な理解を得る。特に、これらに関する国家試験について、正解を導き出すことはできなくとも、大体的内容について理解をし、問題に迎えるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション&子ども家庭福祉の理念			この授業の学びについてのオリエンテーション。続いて、子ども家庭福祉の理念について学ぶ。特に児童福祉という表現から、子ども家庭福祉という表現に変わった意味について学ぶ。				講義		
第2回	子どもの権利・生命と発達			子どもの権利保障に関する歴史的過程とその意味について学ぶ。子どもの生きる権利と発達のプロセスについて学ぶ（テキストを予め読んでくること。）				講義・ グループワーク		
第3回	子どもと家庭・地域			現在の子どもたちを取り巻く現状について学ぶ。（テキストを予め読んでくること。）				講義・ グループワーク		
第4回	慈善・恩恵から権利保障へ、権利擁護の変遷			戦前から戦後の児童福祉の歴史的発展について学ぶ。（テキストを予め読んでくること。）				講義・ グループワーク		
第5回	子ども家庭福祉と現代社会			高度経済成長後から現在に至るまでの歴史的展開について学ぶ。（テキストを予め読んでくること）				講義		
第6回	子ども家庭福祉の法・実施体系			子ども家庭福祉にかかわる法体系の全般的理解。行政機関のそれぞれの役割と諸施設の運営について学ぶ。（テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う）				講義		
第7回	子ども家庭福祉の財政			子ども家庭福祉の財源はどのようなものがあり、使われているかについて学ぶ。（テキストを予め読んでくること）				講義		
第8回	子ども家庭福祉の専門職・計画的推進			子ども家庭福祉に関わる専門職員とその資格等について学ぶ。子ども・子育て支援制度について学ぶ。（テキストを予め読んでくること）				講義		
第9回	障害・難病のある子どもと家族への支援			障害・難病のある子どもと家族の現状とニーズ、その支援に関する制度・知識を学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）				講義		
第10回	児童虐待対策			児童虐待とは何か、またその実態、虐待を予防するためのシステム、課題について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）				講義・ グループワーク		
第11回	社会的養護			社会的養護の諸施策・諸機関等②と今後の動向について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）				講義・ グループワーク		
第12回	児童健全育成			児童健全育成とは何か、またどのような事業があるかについて学ぶ。また、今後のあり方について考察する。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）				講義・ グループワーク		
第13回	地域子育て支援			母子家庭・父子家庭などのひとり親家庭について、その現状と支援のあり方について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）				講義・ グループワーク		
第14回	施設ケアと子ども家庭福祉援助活動			今後の施設ケアのあり方、またあるべき姿について学ぶ、と共に考察する。（テキストを予め読んで来ること）				講義・ グループワーク		
第15回	まとめ			これまでのまとめを行う。				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	参加度20%、期末のテストでの成績80%で評価を行う。期末のテストは、国家試験と同じ形式を取った試験を行う。参加度については、毎回の授業において、発言を行った回数（いかなる内容でも構わない）、演習形式で行った場合の姿勢等を観察して行う。									
課題等	課題は随時提供し、次回までに行ってくる。									
事前事後 学修	次回の学習内容について、学んでおき、様々な質問に答えられるようにしておく。1時間程度の事前学習を勧める。									
教材 教科書 参考書	(教科書)最新 社会福祉士養成講座3『児童・家庭福祉』 中央法規 2021年発行 978-4-8058-8246-7									
留意点	授業において、積極的に意見を述べてほしい。いかなる意見・質問であっても、評価するので、こうした積極性を基本としてほしい。									

科目名	障害者福祉論		科目コード	W31031	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-13	時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目	選択	担当者名	鳴海 春輝				授業 形態	講義	単独
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について理解する。障害者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的部分を理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 DP1、CP1、2に関連する。									
	到達 目標	障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について理解することができる。障害者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的部分を理解することができる。障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切なあり方を理解することができる。多職種の専門職と連携して障害者の基本的な相談支援に対応できる。								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション			担当者の自己紹介、授業の進め方						
第2回	障害の概念と理念①			ICF（国際生活機能分類）の目的と特徴						
第3回	障害の概念と理念②			障害者の人権保障と福祉の理念						
第4回	障害者の生活実態①			障害者人口の変遷、身体障害者の生活実態とニーズ						
第5回	障害者の生活実態②			知的障害者及び精神障害者の生活実態とニーズ						
第6回	障害者の生活実態③			発達障害者及び難病者の生活実態とニーズ						
第7回	障害者権利条約			国際的な権利保障の発達過程、障害者権利条約						
第8回	障害者権利保障の歴史			日本における障害者福祉のあゆみ						
第9回	障害者福祉の法①			障害者基本法、障害者福祉の法体系						
第10回	障害者福祉の法②			対象別の法						
第11回	障害者福祉の法③			障害者虐待防止法、障害者差別解消法						
第12回	障害者総合支援法と障害者支援①			障害者総合支援法までの経緯						
第13回	障害者総合支援法と障害者支援②			障害者総合支援法の概要						
第14回	障害者総合支援法と障害者支援③			自立支援医療、補装具、相談支援、地域生活支援事業						
第15回	障害者総合支援法と障害者支援④			苦情解決と審査請求、他法との適用関係						
評価 方法 及び 評価 基準	レポート30%、定期試験70%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点からレポート提出も求める。									
課題等	レポートは、第8回目の授業の際、課題を複数題提示し、その中から1つ選択しレポートを作成する。第11回目の授業時間に提出する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書：新・社会福祉士シリーズ『障害者福祉』弘文堂の第1章から第5章を講義。第6章以降は補足資料として活用する。ISBN 978-4-335-61219-0 参考書：NHKラジオ第2放送「社会福祉セミナー」放送及びテキスト									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	老人福祉論		科目コード	W31032	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
	社会福祉系系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPSW2-14	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	工藤 浩行・中村 直樹			授業	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。また、高齢者福祉の歴史と高齢者親の変遷、制度の発展過程について理解する。さらに、高齢者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的な知識を理解する。高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。また、高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>DP1、CP1、2に関連する。</p>									
到達目標	<p>高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。また、高齢者福祉の歴史と高齢者親の変遷、制度の発展過程について理解することができる。さらに、高齢者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的な知識を理解することができる。高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解することができる。また、高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	高齢者の定義と高齢者の特性・高齢者の生活実態			高齢者の定義と高齢者の特性(社会的理解、身体的理解、精神的理解) 高齢期の住居、所得、世帯、雇用と就労、介護需要、介護予防				担当：工藤		
第2回	高齢者を取り巻く社会環境・高齢者福祉の理念			高齢期の独居、老老介護、ダブルケア、8050問題、高齢者虐待、介護者の離職の実態 人権尊重、尊厳の保持、老人福祉法における理念、介護保険法における理念				担当：工藤		
第3回	高齢者親の変遷・高齢者福祉制度の発展過程			敬老思想、エイジズム、社会的弱者、アクティブエイジング 高齢者福祉制度の歴史とその発展過程				担当：中村		
第4回	老人福祉法・高齢者の医療の確保に関する法律と高齢者虐待防止法			老人福祉法の概要と老人福祉法に基づく措置制度 高齢者の医療の確保に関する法律の概要、高齢者虐待防止法による虐待の未然防止、通報義務、早期発見の仕組み				担当：中村		
第5回	バリアフリー新法と高齢者住まい法・高齢者雇用安定法と育児・介護休業法			バリアフリー新法と高齢者住まい法の概要 高齢者雇用安定法と育児・介護休業法の概要				担当：中村		
第6回	高齢者と家族等の支援における関係機関の役割、関連する専門職等の役割			国、都道府県、市町村、指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会、地域包括支援センター、ハローワーク、シルバー人材センター 介護福祉士、訪問介護員、介護支援専門員、福祉用具専門相談員、医師、看護師、理学療法士、作業療法士等の専門職の役割、認知症サポーターや住民、ボランティアの活動				担当：工藤		
第7回	介護保険法と介護保険制度の概要			介護保険法と介護保険制度の概要 保険者と被保険者、保険料、介護報酬の概要				担当：中村		
第8回	介護保険の保険財政・介護保険の要介護認定の仕組みとプロセス			介護保険の保険財政 介護保険の要介護認定の仕組みとプロセス				担当：中村		
第9回	介護保険の居宅サービスの種類・介護保険の施設サービスの種類			介護保険の居宅サービスの種類、サービスの特徴 介護保険の施設サービスの種類、サービスの特徴				担当：中村		
第10回	介護保険の地域密着型サービスの種類・近年の介護保険法改正と制度の変更点			介護保険の地域密着型サービスの種類、サービスの特徴 近年の介護保険法改正と制度の変更点、共生型サービス、地域支援事業の拡充				担当：中村		
第11回	地域支援事業・介護保険サービスの利用負担と利用者負担の軽減策			地域支援事業の内容、介護保険サービスの利用負担の仕組み、高額介護サービス費、高額介護合算療養費等の利用者負担の軽減策				担当：中村		
第12回	介護保険事業計画・地域包括支援センターの組織体系と役割			市町村による介護保険事業計画、地域包括支援センターの組織体系と役割				担当：中村		
第13回	総合事業、介護予防・生活支援サービス事業への住民参画・高齢者領域における社会福祉士の役割			総合事業、介護予防・生活支援サービス事業への住民参画の視点、高齢者領域における社会福祉士の役割				担当：工藤		
第14回	高齢者と家族に対する支援・多職連携による高齢者と家族の支援の実例			高齢者とその家族に対する支援、介護をしながら就労する家族の支援、介護予防の支援、地域包括包括ケアシステムにおける認知症高齢者支援の実例				担当：工藤		
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめ				担当：中村		
評価方法及び評価基準	<p>・①期末試験(70%)、②授業内課題(30%)で、総合的に評価する。総合して60%以上の者に対し単位を認定する。</p> <p>・期末試験は、到達目標をもとに、全体像を理解できているかについて評価する。</p> <p>・授業内課題は、毎回の授業終了時にアクションペーパーの記入・提出により評価する。また、適宜、グループ発表等の評価も加算する。</p>									
課題等	<p>・サービス内容に関するグループ プレゼンテーション(調べ学習・発表) ・アクションペーパー</p>									
事前事後学習	<p>「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。</p>									
教科書参考書	<p>教科書：社会福祉士養成講座編(2021)『高齢者福祉』中央法規 参考書：『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房</p>									
留意点	<p>・この科目は、社会福祉士国家試験資格取得「指定科目」である。</p> <p>・保健・医療・福祉に関連する事件やニュースについて関心を払い、毎回、1件以上の事件やニュースについて具体的に発表・記述できるようにしておくこと。</p> <p>・期末試験は、学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するように心がけること。</p>									

科目名	公的扶助論		科目コード	W31035	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
	社会福祉専門教育科目	選択	科目ナンバリング	W-PPSW2-20	時間	30時間				
区分	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	丸山 龍太			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>公的扶助(生活保護)は公的責任に基づき、租税を財源として貧困者に対して行われる所得保障の制度である。公的扶助論Aでは、次の4つの項目の理解を促す。</p> <p>①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。 ③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④貧困による生活課題を踏まえ、謝意か福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕DP1, 3 CP2, 4に関連する。</p>									
到達目標	<p>到達目標として講義を通じて次の4つの項目の理解を促す。</p> <p>①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。 ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解することができる。 ③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解することができる。 ④貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解することができる。</p>									
授業計画										
回	主題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	貧困の概念		①貧困の概念(絶対的貧困、相対的貧困、社会的排除、社会的孤立)、②公的扶助の意義と範囲(公的扶助の意義、生存権、セーフティネット、ナショナルミニマム)、③公的扶助の範囲(狭義、広義)について学ぶ。						講義・Think pair share	
第2回	貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境(1)		貧困状態にある人の生活実態(健康、居住、就労、教育、社会資本関係)について学ぶ。						講義・Think pair share	
第3回	貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境(2)		貧困状態にある人を取り巻く社会環境(経済構造の変化、家族や地域の変化、格差の拡大、社会的孤立)について学ぶ。						講義・Think pair share	
第4回	貧困の歴史(1)		①貧困状態にある人に対する福祉の理念(人権の尊重、尊厳の保持、貧困、格差、差別の解消)、②貧困観の変遷(スティグマ、貧困の測定、貧困の発見)について学ぶ。						講義・Think pair share	
第5回	貧困の歴史(2)		貧困に対する制度の発展過程、救貧制度(日本、諸外国)、生活保護法、ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法、子どもの貧困対策の推進に関する法律、生活困窮者自立支援法の概要を学ぶ。						講義・Think pair share	
第6回	貧困に対する法制度(1) 生活保護法①		①生活保護法の限原則と概要、②生活保護制度の動向、③最低生活費と生活保護基準、④福祉事務所の機能と役割について学ぶ。						講義・Think pair share	
第7回	貧困に対する法制度(2) 生活保護法②		①生活保護に関する相談の流れ、②自立支援、就労支援の考え方や自立支援プログラム、③生活保護施設の役割について学ぶ。						講義・Think pair share	
第8回	貧困に対する法制度(3) 生活困窮者自立支援法		①生活困窮者自立支援法の理念と概要、②生活困窮者自立支援制度の動向、③自立相談支援事業と任意事業、④生活困窮者自立支援制度における組織と実施体制、⑤相談支援の流れといった制度の概要を学ぶ。						講義・Think pair share	
第9回	貧困に対する法制度(4) 低所得者対策		①生活福祉資金貸付制度、②無料低額診療事業、③無料低額宿泊所、④求職者支援制度、⑤法律扶助、⑥低所得者への住宅政策と住居支援について学ぶ。						講義・Think pair share	
第10回	貧困に対する法制度(5) ホームレス対策		①ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法の概要、②ホームレスの考え方や動向、③ホームレス支援施策について学ぶ。						講義・Think pair share	
第11回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割(1)		①貧困に対する支援における公私の役割関係(行政の責務、公私の役割)、②国、都道府県、市町村の役割(国の役割、都道府県の役割、市町村の役割)、③福祉事務所の役割(福祉事務所の組織と業務)について学ぶ。						講義・Think pair share	
第12回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割(2)		①自立相談支援機関の組織、役割、業務について、②その他の貧困に対する支援における関係機関の役割(社会福祉協議会、ハローワーク、地域若者サポートステーション、民間支援団体等)について学ぶ。						講義・Think pair share	
第13回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割(3)		関連する専門職等の役割、精神保健福祉士、医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、サービス管理責任者、ハローワーク就職支援ナビゲーター、教諭、スクールソーシャルワーカー、弁護士、保護観察官、保護司、民生児童委員、主任児童委員、住民ボランティア、家族等について学ぶ。						講義・Think pair share	
第14回	多職種連携を含む、貧困に対する支援実態 — 社会福祉士の役割—		①生活保護制度及び生活保護施設における自立支援、就労支援、居住支援の実態、②生活困窮者自立支援法における自立支援、就労支援、居住支援の実態、③生活福祉資金貸付を通じた自立支援の実態、④多機関及び多職種、住民、企業等との連携による地域づくりや参加の場づくりの実態について事例を通して学ぶ。						講義・Think pair share	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。						講義	
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。課題20%、試験60%、授業への参加度20%で評価する。</p> <p>レポート課題は、能動的な学習によって知識の活用が図られているかを問う。</p> <p>試験は、到達目標に即した問題を出題し、基本的理解を得られているかを問う。</p> <p>参加度は、毎回協同学習の1つである「Think-Pair-Share」をWI-FIを用いて実施する中で、その活動への関わり方等を踏まえ評価を行う。</p>									
課題等	第8回目を目的にレポート課題をTEAMSで提示するので、TEAMSにより提出する。レポート課題を通じて授業への理解度を図ると同時に復習の時間とする。復習は1回の授業につき90分程度の時間を要する内容とする。									
事前事後学修	毎回、次週の授業に必要な事柄を予習するよう具体的に指示する。予習は1回の授業につき90分程度の内容とする。この予習は授業内のThink-Pair-Shareを行う為に必須となる。									
教材教科書参考書	伊藤秀一編著『貧困に対する支援』弘文堂、2022年 (ISBN 978-4-335-61221-3)									
留意点	「慈悲的救済から権利的保障へ」と発展した公的扶助は近年大きく揺らいでいる。貧困に対抗する為に何をどうするべきか。講義を通じ共に考えることとしたい。									

科目名	地域福祉論A		科目コード	W33009	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
	社会福祉系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPSW2-15	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	高橋 和幸			授業	形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。また、地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の理念を理解する。さらに、地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。加えて、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開の基礎的部分を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解することができる。また、地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の理念を理解することができる。さらに、地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解することができる。加えて、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開の基礎的部分を理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容						備 考
第1回	地域福祉の概念と理論			地域福祉の概念、地域福祉の構造と機能、福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス論、ボランティア、市民活動論、共生社会について学ぶ。						
第2回	地域福祉の発展過程(歴史)			セトルメント、COS、社会事業、社会福祉協議会、民生委員、児童委員、共同募金、在宅福祉、施設の社会化、地方分権、社会福祉基礎構造改革、地域自立生活、地域包括ケア。地域共生社会の概要について学ぶ。						
第3回	地域福祉の動向			コミュニティソーシャルワーク、コミュニティサービス、地域再生、ケアリングコミュニティについて学ぶ。						
第4回	地域福祉の推進主体			地方自治体、NPO、市民活動組織、中間支援組織、町内会、自治会等地縁組織、民生児童委員、保護司、社会福祉協議会等について学ぶ。						地域福祉の多様な推進主体に関する小テスト
第5回	地域福祉の主体と形成			当事者、代弁者、ボランティア、市民活動、住民活動、住民主体、参加と協働、エンパワメント、アドボカシー、福祉教育について学ぶ。						
第6回	福祉行政システム(1)			国の役割、都道府県の役割、市町村の役割、法定受託事務と自治事務、福祉行政の広域調整、事業者の指導監督、サービスの運営主体、条例、社会福祉審議会について学ぶ。						
第7回	福祉行政システム(2)			福祉行政の組織及び専門職の役割、とくに福祉事務所と児童相談所、それらの機関で働く専門職、福祉における財源について学ぶ。						
第8回	福祉計画の意義・目的と展開			福祉行財政と福祉計画の関係、福祉計画の関係、福祉計画の歴史、福祉計画の種類について学ぶ。						
第9回	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容			地域福祉と計画行政の関係、市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画の定義、機能、地域福祉活動計画との関係について学ぶ。						
第10回	福祉計画の策定過程と方法			計画策定に向けた課題把握、分析、協議と合意形成について学ぶ。						福祉計画の策定過程と方法に関する小テスト
第11回	福祉計画の実施と評価			サービス評価、プログラム評価について学ぶ。						
第12回	地域社会の変化と多様化			地域社会の理念と理論、地域社会の変化(過疎化・都市化・地域間格差外国人住民の増加等)について学ぶ。						
第13回	多様化複雑化した地域生活課題の現状とニーズ			ひきこもり、ニート、8050問題、ダブルケア、依存症、多文化共生、自殺、災害と被災者支援について学ぶ。						
第14回	地域福祉と社会的孤立の問題について			社会的孤立、社会的排除、セルフネグレクト等、社会的な孤立の問題について学ぶ。						
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめをおこなう。						興味のある市町村社協事業を調べ報告(PBL)
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。</p>									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。また、レポート様式をオンライン授業ファイルにアップし活用してもらう。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『地域福祉と包括的支援体制』中央法規 ISBN 978-4-8058-8236-4、参考書として、いとう総研資格取得支援センター編(2022)『社会福祉士国試ナビ2023』中央法規 ISBN-978-4-8058-8480-5(但し毎年7月に最新版が出るので参考書購入は任意である)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	地域福祉論B		科目コード	W33010	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	社会福祉系系列科目	選択 必修	科目ナンバリング	W-PPSW2-16	時間	30時間				
区分	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目		担当者名	高橋 和幸			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。また、包括的支援体制の考え方や、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。さらに、地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1と4に関連している。</p>									
到達 目標	地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解することができる。また、包括的支援体制の考え方や、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解することができる。さらに、地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	包括的支援体制について			包括的支援体制の考え方、包括的支援体制の展開について学ぶ。						
第2回	地域包括ケアシステムについて			地域包括ケアの考え方と展開方法、精神障害にも対応した地域包括ケアの展開、子育て世代包括支援センターについて学ぶ。						
第3回	生活困窮者自立支援の考え方(1)			生活困窮者自立支援制度と理念、自立相談機関による支援過程と方法及び実際について学ぶ。						
第4回	生活困窮者自立支援の考え方(2)			件奏型の支援と対象者横断的な包括的相談支援、個人および世帯の支援、居住支援、就労支援、家計支援、子どもの学習・生活支援について学ぶ。					生活困窮者支援に関する小テスト	
第5回	地域共生社会の実現に向けた各種施策について			多機関協働による包括的支援体制、住民に身近な圏域における相談支援体制について学ぶ。						
第6回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働を促進する仕組み(1)			総合相談、各種相談機関の連携、協議体、地域ケア会議について学ぶ。						
第7回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働を促進する仕組み(2)			地域包括支援センター運営協議会、要保護児童対策地域協議会、障害者自立支援協議会について学ぶ。					多機関連携に関する小テスト	
第8回	地域共生社会の実現に向けた多職種連携			保健・医療・福祉に関わる他職種連携、生活支援全般に関わるネットワーク、多職種連携等における個人情報保護について学ぶ。					多職種連携に関する小テスト	
第9回	地域共生社会の実現に向けた福祉以外の分野との機関協働の実際			社会的企業、農福連携、観光や商工労働等との連携、地方創生について学ぶ。						
第10回	非常時や災害時における法制度			災害対策基本法、災害救助法、各自治体等の避難計画について学ぶ。						
第11回	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援			災害時要援護者支援、BCP、福祉避難所運営、災害ボランティアについて学ぶ。						
第12回	地域福祉ガバナンス(1)			地域福祉と包括支援体制を推進するためのガバナンスの考え方、多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性について学ぶ。						
第13回	地域福祉ガバナンス(2)			社会福祉法における包括的な支援体制づくり、住民参加と協働、住民自治、プラットフォームの形成と運営について学ぶ。						
第14回	地域共生社会の構築			地域共生社会、地域力の強化、包括的支援体制について学ぶ。						
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめをおこなう。					地元の地域包括ケアに向けた取り組み状況と課題を調べ報告(PBL)	
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。また、レポート様式をオンライン授業ファイルにアップし活用してもらう。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『地域福祉と包括的支援体制』中央法規 ISBN 978-4-8058-8236-8、参考書としてという総研資格取得支援センター編(2022)『社会福祉士国試ナビ2023』中央法規 ISBN-978-4-8058-8480-5(毎年7月に最新版が出るので参考書購入は任意だが最新版入手のこと)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	保健医療論		科目コード	W33013	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	社会福祉系列科目	選択 必修	科目ナンバリング	W-PPSW2-17	時間	30時間				
区分	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目		担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>保健医療分野におけるソーシャルワークは、利用者（患者）のウェルビーイングと生活の質の向上を目指している。そこで本授業では、保健医療制度の仕組みや政策動向、診療報酬、医療施設、地域医療の専門職種の連携、医療ソーシャルワークの役割や実践におけるマイクロ・メゾ・マクロ視点等から学ぶことを目的とする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 医療ソーシャルワーク実践における倫理、保健医療の動向を理解する。</p> <p>2. 保健医療分野における疾病の理解、関連する政策・制度、保健医療サービスなどを学ぶ。</p> <p>3. 保健医療分野における医療ソーシャルワーカーの役割と、専門職の連携や協働について理解する。</p> <p>4. 医療ソーシャルワーカーの業務指針とソーシャルワーク実践について事例を通して学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション 保健医療の動向と社会福祉、展望		授業概要の説明、保健医療の動向と社会福祉、未来の展望を知る。						講義 PBL	
第2回	医療保険制度の仕組み		医療保険制度の沿革、特徴と種類、給付と負担を学ぶ。						講義	
第3回	公費負担制度の仕組み		国と地方が行う公費負担制度、種類とその概要を学ぶ。						講義	
第4回	医療費に関する政策動向		国民医療費の動向、今後の医療費政策を知る。						講義	
第5回	保険診療の仕組み		診療報酬制度と介護報酬制度のしくみと関係を学ぶ						講義	
第6回	高齢者のケアを支援する診療報酬制度		高齢者ケアにおける在宅医療の現状についてDVDを視聴し、在宅医療と家族、専門職の連携について考察する。						講義 PBL	
第7回	保健医療サービスと医療施設		保健医療サービスの歴史的変遷と医療施設、政策医療を学ぶ。						講義	
第8回	保健医療サービスの提供と保健医療対策①		医療法改正の概要、地域における医療提供体制について学ぶ						講義	
第9回	保健医療サービスの提供と保健医療対策②		地域医療計画の概要と保健医療施設の関係を学ぶ。						講義	
第10回	保健医療にかかる倫理		医療現場における倫理的課題と意思決定支援を学ぶ。						講義	
第11回	保健医療サービスにおける専門職の役割		保健医療従事者と医療行為、医療情報と安全を学ぶ。 保健医療サービスにおける専門職の役割を知る。						講義、PBL	
第12回	疾病に伴う生活課題と医療ソーシャルワーカー		医療ソーシャルワークの特徴、医療ソーシャルワーカーの役割を学ぶ。						講義	
第13回	医療ソーシャルワーカーの歴史		イギリス、アメリカ、日本における医療ソーシャルワーカーの歴史を学ぶ。						講義	
第14回	医療ソーシャルワーカーとソーシャルワーク実践		医療ソーシャルワーカーの業務指針と主な業務を学ぶ。						講義	
第15回	保健医療関係者との連携と実際		地域の保健医療ネットワーク構築、チームアプローチの方法と実際を学ぶ。						講義 PBL	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>小テスト80%、レポート20%の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストは、6回、11回、15回に実施し、その合計点で評価する。 ・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・命の尊厳とソーシャルワークに関するレポートを作成する。 ・次の講義までフィードバックし理解を深めておくこと。 									
事前事後 学修	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、保健に関係する図書や新聞を読むこと。 ・予習復習を通して内容の理解に努め、テストに備えること。 									
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】岩崎晋也ほか 監修・小原真知子ほか 編著『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック 14』、2021、9784623092086</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2023[令和5年版]』、2023</p> <p>【参考書】いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2024』、2023 7月発売予定</p>									
留意点	この科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健福祉の原理A		科目コード	W31033	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-18						
区分	社会福祉系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	葛西 久志			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健福祉の原論Aでは、「障害者福祉の理念と歴史的展開」、「精神障害と精神障害者の概念」を学び、精神保健福祉士の主な対象となる人と社会の捉え方を理解する。また「精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造」では、歴史的事実のみでなく、そこから人権や社会正義に照らして教訓とすべき考え方を習得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について学ぶ。②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的とともに、生活実態について学ぶ。③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	障害者福祉の理念①		①障害者福祉の思想と原理						視聴覚（スライド）使用	
第2回	障害者福祉の理念②		②障害者福祉の理念						視聴覚（スライド）使用	
第3回	障害者福祉の理念③		③障害者福祉の歴史的展開						視聴覚（スライド）使用	
第4回	「障害」と「障害者」の概念①		①国際生活機能分類（ICF）						視聴覚（スライド）使用	
第5回	「障害」と「障害者」の概念②		②制度における「精神障害者」の定義						視聴覚（スライド）使用	
第6回	「障害」と「障害者」の概念③		③精神障害の障害特性						視聴覚（スライド）使用	
第7回	社会的排除と社会的障壁①		①諸外国の動向【1】						視聴覚（スライド）使用	
第8回	社会的排除と社会的障壁②		①諸外国の動向【2】						視聴覚（スライド）使用	
第9回	社会的排除と社会的障壁③		②日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事【1】						視聴覚（スライド）使用	
第10回	社会的排除と社会的障壁④		②日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事【2】						視聴覚（スライド）使用	
第11回	社会的排除と社会的障壁⑤		②日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事【3】						視聴覚（スライド）使用	
第12回	社会的排除と社会的障壁⑥		③日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取組み【1】						視聴覚（スライド）使用	
第13回	社会的排除と社会的障壁⑦		③日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取組み【2】						視聴覚（スライド）使用	
第14回	社会的排除と社会的障壁⑧		③日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取組み【3】						視聴覚（スライド）使用	
第15回	社会的排除と社会的障壁⑨		③日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取組み【4】						視聴覚（スライド）使用	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。レポート課題（20%）定期試験（80%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてのどの程度理解したかを評価する。</p>									
課題等	精神保健福祉士とは、どのような専門職なのかを知るために、精神保健福祉関連の文献等を読む。									
事前事後 学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉関連の書籍等を読む。									
教材 教科書 参考書	最新・精神保健福祉士養成講座 第5巻「精神保健福祉の原理」中央法規出版（ISBN978-4-8058-8256-6）									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健福祉の原理B		科目コード	W31034	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-19	時間	30時間				
区分	社会福祉系系列科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	葛西 久志			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健福祉の原理Bでは、「精神障害者の生活特性」において精神障害のある人々が置かれている状況や生活実態の理解を深める。「精神保健福祉の原理と理念」における人々や環境・状況に対するソーシャルワークの展開を支える精神保健福祉士の存在意義を理解する。また「精神保健福祉士の役割と機能」では、実践上の着眼点や場面・状況に応じた具体的行為の特性を学ぶ。過去の歴史を学ぶ側面に加え、近年の動向を踏まえたメンタルヘルスソーシャルワークを学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>精神障害者へのかかわりについて、①精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く②現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について③精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割について④近年の精神保健福祉士の職域と業務特性などを学ぶ</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	精神障害者の生活実態①		精神科医療の特異性					視聴覚（スライド）使用		
第2回	精神障害者の生活実態②		家族、社会生活					視聴覚（スライド）使用		
第3回	「精神保健福祉士」の資格化の経緯と精神保健福祉の原理と理念①		「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯、原理・価値					小テスト①視聴覚（スライド）使用		
第4回	「精神保健福祉士」の資格化の経緯と精神保健福祉の原理と理念②		観点・視点、関係性					視聴覚（スライド）使用		
第5回	「精神保健福祉士」の機能と役割⑤		精神保健福祉士法【1】					視聴覚（スライド）使用		
第6回	「精神保健福祉士」の機能と役割⑥		精神保健福祉士法【2】					視聴覚（スライド）使用		
第7回	精神保健福祉士の職業倫理①		①倫理綱領 ②倫理的ジレンマ ③専門職団体の意義と役割					小テスト②視聴覚（スライド）使用		
第8回	精神保健福祉士の職業倫理②		①倫理綱領 ②倫理的ジレンマ ③専門職団体の意義と役割					視聴覚（スライド）使用		
第9回	精神保健福祉士の業務①		精神保健福祉士の業務特性【1】					視聴覚（スライド）使用		
第10回	精神保健福祉士の業務②		精神保健福祉士の業務特性【2】					視聴覚（スライド）使用		
第11回	精神保健福祉士の業務③		精神保健福祉士の業務特性【3】					小テスト③視聴覚（スライド）使用		
第12回	精神保健福祉士の職業①		精神保健福祉士の職場・職域【1】					視聴覚（スライド）使用		
第13回	精神保健福祉士の職業②		精神保健福祉士の職場・職域【2】					視聴覚（スライド）使用		
第14回	精神保健福祉士の業務指針①		精神保健福祉士の業務内容と業務指針【1】					視聴覚（スライド）使用		
第15回	精神保健福祉士の業務指針②		精神保健福祉士の業務内容と業務指針【2】					視聴覚（スライド）使用		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。レポート課題（20%）定期試験（80%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についての程度理解したかを評価する。小テストを3回実施する。</p>									
課題等	精神保健福祉士とは、どのような専門職なのかを知るために									
事前事後 学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉関連の書籍等を読む。									
教材 教科書 参考書	最新・精神保健福祉士養成講座 第5巻「精神保健福祉の原理」中央法規出版（ISBN978-4-8058-8256-6）									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健福祉制度論		科目コード	W31036	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPSW2-21	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>近年、私たちを取り巻く環境は著しく変化し、メンタルヘルスに課題のある人々が増えている。そこで本科目では、メンタルヘルスに関連する法体系や精神障害者に関する法制度を主に学ぶことを目的としている。加えて予習と復習を繰り返しながら理解を深めて、精神保健福祉士としての相談援助に関する知識および技術の向上を目指すものである。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな法制度（精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度や、生活支援に関する制度、生活保護制度、生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題等、障害者総合支援法等）を知る。 法制度の理解を深める方法としてwhy、what、who、where、when、How was、How many、How machiに関連づけて習得する。 									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修							備考	
第1回	精神障害者に関する制度・施策の理解①	オリエンテーション、精神障害者に関する制度・施策の体系を知る							講義、PBL	
第2回	精神障害者に関する制度・施策の理解②	精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴；精神障害者に関する制度活用の流れとその事例を学ぶ							講義	
第3回	精神障害者の医療に関する制度①	精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割を学ぶ							講義、予習課題①	
第4回	精神障害者の医療に関する制度②	精神科医療がかかわりも持つ施策を学ぶ							講義、PBL	
第5回	精神障害者の医療に関する制度③	医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割を学ぶ							講義、予習課題②	
第6回	精神障害者の医療に関する制度④	精神障害者の医療と関連する施策を学ぶ							講義、PBL	
第7回	精神障害者の生活支援に関する制度①	生活支援の基本的な考え方：障害者総合支援法を学ぶ							講義、予習課題③	
第8回	精神障害者の生活支援に関する制度②	相談支援制度の概要と内容、精神保健福祉士の役割を学ぶ							講義、PBL	
第9回	精神障害者の生活支援に関する制度③	居住支援制度の概要と内容、精神保健福祉士の役割を学ぶ							講義、予習課題④	
第10回	精神障害者の経済的支援①	精神障害者の暮らしに果たす経済的支援の意義と役割を学ぶ							講義、PBL	
第11回	精神障害者の経済的支援②	所得保障にかかわる経済的支援を学ぶ							講義	
第12回	精神障害者の経済的支援③	経済的負担軽減を学ぶ							講義	
第13回	精神障害者と生活困窮①	生活困窮と生活保護制度を学ぶ							講義、予習課題⑤	
第14回	精神障害者と生活困窮②	生活困窮者自立支援制度を学ぶ							講義、予習課題⑥	
第15回	精神障害者と生活困窮③	低所得者対策の概要と経済・居住・生活支援などを学ぶ							講義、PBL	
評価方法及び評価基準	<p>小テスト70%、事前課題レポート30%の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テストは、5回、10回、15回に実施し、その合計点で評価する。 事前課題レポートは、テキストを熟読してまとめる（誤字脱字、論理的な記述、理解の程度等で評価する）。 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 授業予習として指定された法律を読んで授業に臨むこと 予習復習を通して内容の理解に努め、テストに備えること 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 医療、保健に関する図書や新聞を読むこと。 予習復習を通して内容の理解に努め、テストに備えること。 									
教材教科書参考書	<p>【教科書】一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『精神保健福祉制度論』、2021、978-4-8058-8255-9</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2023〔令和5年版〕』、2023</p> <p>【参考書】いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2024』、2023 7月発売予定</p>									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業、福祉小六法を持参すること。 この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。 									

科目名	精神障害リハビリテーション学		科目コード	W31037	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-PPSW2-21	30時間						
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小山内 隆生			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神障害者のリハビリテーションについて精神障害者の生活をイメージできるようになることを目指す。当事者の生活障害に対するリハビリテーションの実際や課題を学ぶ。医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションプログラムを紹介し、当事者や他職種と協働して進めるリハビリテーションプロセスを理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 ②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 ③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	オリエンテーション		1. 授業の進め方について 2. 障害の定義							
第2回	精神障害リハとソーシャルワーク		精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係 精神保健福祉士							
第3回	精神障害リハビリテーションの理念		精神障害リハビリテーションの概念、歴史							
第4回	リハビリテーションの分類		医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、							
第5回	精神障害リハビリテーションの基本原則		日本における歴史							
第6回	地域およびリカバリー		リカバリーの概念と地域生活							
第7回	精神障害リハビリテーションの対象		ICFと精神障害の特性							
第8回	チームアプローチ		チームアプローチの理念と実際							
第9回	医学的リハビリテーションプログラム		作業療法・行動療法他							
第10回	職業的リハビリテーションプログラム		職業リハビリテーションの実際							
第11回	社会的リハビリテーションプログラム		SST・心理教育・他							
第12回	家族支援リハビリテーションプログラム		家族セインの理念と実際							
第13回	事例		精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション							
第14回	事例		依存症のリハビリテーション							
第15回	まとめ									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業の参加態度50点、試験50点 出席について：遅刻2回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p>									
課題等	リハビリテーションについて理解を深めておくこと									
事前事 後学修	教科書をよく読んでおくように									
教材 教科書 参考書	<p>教科書 ・最新精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規 2021</p>									
留意点	教科書に従って授業を進めるので予習復習をよくするように									

科目名	ソーシャルワーク論 I A		科目コード	W32001	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-01						
区分	社会福祉系列科目	選択	担当者名	小川 幸裕				授業 形態	講義	単独
	社会福祉士指定科目	必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	①人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 ③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。									
到達 目標	①人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて説明できる。 ②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて説明できる。 ③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について説明できる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(1)			一般システム理論、サイバネティクス、自己組織性①				講義		
第2回	人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(2)			一般システム理論、サイバネティクス、自己組織性②				講義、グループワーク		
第3回	人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(3)			マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①				講義		
第4回	人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(4)			マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②				講義 レポート課題		
第5回	ソーシャルワークの過程(1)			ケース発見				講義		
第6回	ソーシャルワークの過程(2)			エンゲージメント				講義、グループワーク		
第7回	ソーシャルワークの過程(3)			アセスメントの意義と目的				講義		
第8回	ソーシャルワークの過程(4)			アセスメントの方法 アセスメントの留意点				講義 レポート課題		
第9回	ソーシャルワークの過程(5)			プランニングの意義と目的				講義		
第10回	ソーシャルワークの過程(6)			プランニングのプロセスと方法、留意点				講義		
第11回	ソーシャルワークの過程(7)			支援の実施				講義		
第12回	ソーシャルワークの過程(8)			モニタリング 効果測定				講義		
第13回	ソーシャルワークの過程(6)			支援の終結と評価 アフターケア				講義		
第14回	ソーシャルワークの実践モデル			治療モデル 生活モデル ストレングスマデル				講義		
第15回	まとめ			人と環境の交互作用に関する理論 ソーシャルワークの過程 ソーシャルワークの実践モデル				講義、グループワーク		
評価 方法 及び 評価 基準	1. 定期試験70%、レポート30% 2. 定期試験:持ち込み不可の筆記試験を実施する。試験内容として、ソーシャルワークの構造、展開過程、モデルについて択一式問題などで確認する。 3. レポート:ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートなどを課し、評価対象とする。 ※ レポートは、ルーブリックを用いて評価する。									
課題等	フィードバックとしてレポートについてコメントを返す									
事前事 後学修	講義時にて次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。準備学習時間の目安:1日あたり30分以上。									
教材 教科書 参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)『ソーシャルワークの理論と方法』中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8242-9									
留意点	1. 教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 2. 社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。									

科目名	ソーシャルワーク論ⅠB		科目コード	W32002	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-02						
区分	社会福祉系列科目	選択	担当者名	小川 幸裕				授業 形態	講義	単独
	社会福祉士指定科目	必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	①ソーシャルワークのアプローチについて理解する。 ②ソーシャルワークの記録、ケアマネジメントについて理解する。 ③集団やコミュニティを活用した支援の展開について理解する。 ④ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションについて理解する。 ⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。									
到達 目標	①ソーシャルワークのアプローチについて説明できる。									
	②ソーシャルワークの記録、ケアマネジメントについて説明できる。 ③集団やコミュニティを活用した支援について説明できる。 ④ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションについて説明できる。 ⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて説明できる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(1)			・心理社会的アプローチ ・機能的アプローチ ・問題解決アプローチ				講義		
第2回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(2)			・課題中心アプローチ ・危機介入アプローチ ・行動変容アプローチ				講義、グループワーク		
第3回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(3)			・エンパワメントアプローチ				講義		
第4回	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(4)			・ナラティブアプローチ ・解決志向アプローチ				講義 レポート課題		
第5回	ソーシャルワークの記録			記録の意義、目的、方法				講義		
第6回	ケアマネジメント			ケアマネジメントの原則、意義、方法				講義		
第7回	集団を活用した支援(1)			グループワークの意義と目的、原則				講義		
第8回	集団を活用した支援(2)			グループワークの展開過程				講義 小テスト		
第9回	コミュニティワーク			コミュニティワークの意義と目的				講義		
第10回	コミュニティワーク			コミュニティワークの展開				講義		
第11回	ソーシャルアドミニストレーション			ソーシャルアドミニストレーションの目的、方法				講義 レポート課題		
第12回	ソーシャルアクション			ソーシャルアクションの目的、方法				講義		
第13回	スーパービジョンとコンサルテーション(1)			スーパービジョンの意義、目的				講義		
第14回	スーパービジョンとコンサルテーション(2)			スーパービジョンの方法				講義		
第15回	まとめ			1)ソーシャルワークのアプローチ 2)記録、ケアマネジメント 3)グループワークとコミュニティワーク 4)ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョン				講義、グループワーク		
評価 方法 及び 評価 基準	1)定期試験70%、レポート30% 2)定期試験:持ち込み不可の筆記試験を実施する。試験内容として、ソーシャルワークのアプローチ、記録、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョンについて択一式問題などで確認する。 3)小テスト:2回予定しており、授業で使用した基本的用語の理解について穴埋め式等で確認する。 4)レポート:視覚教材についての所感レポートなどを課し、評価対象とする。 ※ レポートは、ルーブリックを用いて評価する。									
課題等	フィードバックとしてレポートについてコメントを返す									
事前事後 学修	講義時にて次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。準備学習時間の目安:1日あたり30分以上。									
教材 教科書 参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)『ソーシャルワークの理論と方法』中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8242-9									
留意点	1)教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 2)社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。									

科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ A		科目コード	W32003	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWPF3-03.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目	必修								
授業の概要等	〔授業の主旨〕 この授業では、多様化、複雑化する社会構造の中で生活課題へ対応するために援助関係の構築方法や社会資源の開発、包括的支援、家族支援、災害等におけるソーシャルワークの実践方法を学ぶ。具体的には、個人、家族、小集団、組織、地域社会をクライアント・システムととらえて、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・価値をもとに基礎・応用を理論的に学ぶ。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している									
到達目標	1. 人と環境の相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの機能について理解する。 2. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 3. ソーシャルワークの面接の意義や構造等について実践的な理論と方法の理解を深める。 4. 実際に事例を通してソーシャルワークの展開(インタビュー、アセスメント、プランニング、モニタリング、など)を自ら作成し習得する。 5. ソーシャルワークのネットワーキングをカンファレンス等を通じて理解を深める。									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割①			オリエンテーション 求められるソーシャルワークの機能と役割を学ぶ。1～2				講義		
第2回	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割②			ソーシャルワークの機能と役割:支援が必要な個人と家族地域のニーズ発見、アセスメント、社会資源の調整、包括的な支援体制、体制構築、人材育成を学ぶ。				講義		
第3回	ソーシャルワークにおける面接①			面接の意義・目的を学び、面接の場面と構造を学ぶ。				講義		
第4回	ソーシャルワークにおける面接②			面接技法、面接の展開過程を事例を通して学ぶ。				講義		
第5回	ソーシャルワークの援助関係①			ソーシャルワークにおける援助関係の形成と活用を学び、実際に事例を通じて方法を習得する。				講義 PBL		
第6回	ソーシャルワークの援助関係②			ソーシャルワークにおける形成と活用を学び、実際に事例を通じて方法を習得する。				講義 PBL		
第7回	社会資源の開発とソーシャルアクション①			ソーシャルワークにおける社会資源の位置づけを実践事例を通して学ぶ。				講義		
第8回	社会資源の開発とソーシャルアクション②			社会資源の開発とソーシャルアクションを学ぶ。				講義		
第9回	社会資源の開発とソーシャルアクション③			ソーシャルアクションの定義と変遷、その実際を学び、事例を通して学びを習得する。				講義		
第10回	ソーシャルワークの関連技術・方法①			ネットワーキングとコーディネーションの意義と目的、方法を知る。				講義		
第11回	ソーシャルワークの関連技術・方法②			ネゴシエーション準備の4つの原則、方策や計画を立てる。				講義		
第12回	ソーシャルワークの関連技術・方法③			ファシリテーションとプレゼンテーションを学び実際の事例を通して理解を深める。				講義		
第13回	カンファレンスと事例分析①			多様なカンファレンス、力動的・循環的プロセスとしてのカンファレンスを学ぶ。				講義		
第14回	カンファレンスと事例分析②			事例分析の方法を学ぶ。				講義		
第15回	カンファレンスと事例分析③			事例分析の方法(ミクロ、メゾ、マクロ)を実際の事例を通して学ぶ。				講義		
評価方法及び評価基準	小テスト70%、レポート30%の割合で評価する。 ・小テストは、5回、10回、15回に実施し、その合計点で評価する。 ・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。									
課題等	小テストは次時間に返却するので間違いを修正して復習しておくこと。									
事前事後学修	・次週の授業ページを伝えるので予習して準備するとともに、授業で習得した知識の復習をすること。 ・復習を通して章ごとの理解に努め、小テストに備えること。									
教材教科書参考書	【教科書】空閑浩人ほか編著『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』、2022、9784623090969 【参考書】斎藤環『改訂版社会的ひきこもり 終わらない思春期』、2020、4569845959、PHP新書 【参考書】空閑浩人ほか編著『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック5 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』、2022、9784623090952									
留意点	この科目は、社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	ソーシャルワーク論ⅡB		科目コード	W32004	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
	区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	科目ナンバリング		W-PWPF3-04.		担当者名		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>この授業では、多様化、複雑化する社会構造の中で生活課題へ対応するために援助関係の構築方法や社会資源の開発、包括的支援、家族支援、災害等におけるソーシャルワークの実践方法を学ぶ。具体的には、個人、家族、小集団、組織、地域社会をクライアント・システムととらえて、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・価値をもとに基礎・応用を理論的に学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークとICTについて理解する。 2. 家族支援の概念とその展開について理解する。 3. 災害ソーシャルワークについて理解を深める。 4. スピリチュアルとソーシャルワークについて学ぶ。 5. 多文化とソーシャルワークについて学ぶ。 									
回	主 題		授業内容					備考		
第1回	オリエンテーション ソーシャルワークにおける							講義 PBL		
第2回	ソーシャルワークにおけるICTと個人情報①		ICTとソーシャルワーク、福祉情報の種類を学ぶ。					講義		
第3回	ソーシャルワークにおけるICTと個人情報②		ソーシャルワークにおけるICT活用の課題と個人情報保護制度を学ぶ。					講義		
第4回	家族支援のソーシャルワーク①		家族支援が求められる意義、ソーシャルワークにおける基本的な視点を学ぶ。					講義 デイベート		
第5回	家族支援のソーシャルワーク②		家族支援における形成と内容を学ぶ。					講義 PBL		
第6回	家族支援のソーシャルワーク③		家族支援の展開の実際と課題を考える。					講義		
第7回	災害とソーシャルワーク①		災害の定義を学び、災害ソーシャルワークの定義や被災者の状況を学ぶ。					講義		
第8回	災害とソーシャルワーク②		大規模自然災害の歴史と災害福祉、災害ソーシャルワークを学ぶ。					講義		
第9回	災害とソーシャルワーク③		災害とソーシャルワークの展開の実際を学ぶ。					講義		
第10回	スピリチュアルとソーシャルワーク①		スピリチュアルの定義、ソーシャルワーカーが関わられていることを学び、事例を通して実際の展開方法、課題等を学ぶ。					講義 デイベート		
第11回	スピリチュアルとソーシャルワーク②		スピリチュアリティの形成と内容、展開の実際と課題を知る。					講義 デイベート		
第12回	多文化主義とソーシャルワーク①		多文化主義と多文化ソーシャルワークとは何か、グローバルとソーシャルワークを学ぶ。					講義 PBL		
第13回	多文化主義とソーシャルワーク②		多文化主義とソーシャルワークの展開の実際と課題を知る。					講義 PBL		
第14回	ソーシャルワークにおける総合的・包括的支援の実際		総合的包括的支援の考え方を学び、支援の実際を知る。ソーシャルワークの動向と課題					講義		
第15回	ソーシャルワークの動向と課題		ソーシャルワーカーへの社会からの期待、ジェネラリスト・ソーシャルワークの確立等の近況を知る。					講義		
評価方法及び評価基準	<p>小テスト70%、レポート30%の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストは、5回、10回、15回に実施し、その合計点で評価する。 ・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは次時間に返却するので間違いを修正し復習しておくこと。 ・不登校・ひきこもり支援におけるDVDを視聴し、ソーシャルワークの知識・技術を活用したレポートを作成する。 次の講義でフィードバックし理解を深める。 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・次週の授業ページを伝えるので予習して準備するとともに、授業で習得した知識の復習をすること。 ・復習を通して章ごとの理解に努め、小テストに備えること。 									
教材教科書参考書	<p>【教科書】空閑浩人ほか編著『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』、2022 9784623090969</p> <p>【参考書】南野 奈津子 著『いっしょに考える外国人支援—関わり・つながり・協働する』、2020、978-4750350929</p> <p>【参考書】空閑浩人ほか編著『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック5 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』、2022 9784623090952</p>									
留意点	この科目は、社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	社会福祉調査法		科目コード	W32005	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-03						
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] 社会調査に関する基礎的な概念・方法について学び、量的調査および質的調査の企画の仕方、実施の仕方について学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、3、カリキュラムポリシーの2、3に関連する									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の意義を理解する ・社会調査における倫理を理解する ・量的調査の方法を理解する ・質的調査の方法を理解する 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	社会調査の意義と目的		社会調査の歴史、社会調査における倫理							
第2回	社会調査のデザイン（1）		理論と調査の関係							
第3回	社会調査のデザイン（2）		調査目的と仮説の関係							
第4回	社会調査のデザイン（3）		社会調査の対象							
第5回	量的調査の方法（1）		量的調査とは何か							
第6回	量的調査の方法（2）		量的調査の種類と方法							
第7回	量的調査の方法（3）		質問紙の作成方法							
第8回	量的調査の方法（4）		質問紙の配布と回収							
第9回	量的調査の方法（5）		データの整理、基本統計量、クロス集計、相関分析							
第10回	量的調査の方法（6）		統計的推論、t検定、分散分析、回帰分析							
第11回	質的調査の方法（1）		質的調査とは何か							
第12回	質的調査の方法（2）		質的調査とサンプリング							
第13回	質的調査の方法（3）		観察法、面接法							
第14回	質的調査の方法（4）		記録の取り方							
第15回	質的調査の方法（5）		質的データの分析方法 (ライフストーリー、エスノグラフィー等)							
評価 方法 及び 評価 基準	学期末に課すレポート（60点）と、各回に課す課題（40点）によって評価を行います。									
課題等										
事前事 後学修	使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第5巻 社会福祉調査の基礎』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8235-1)									
留意点	各回の課題は、マイクロソフトのTeamsおよびFormsを使用して提出してもらいます。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ		科目コード	W32011	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	社会福祉系系列科目	選択	科目ナンバリング	W-PPPF1-04						
区分	社会福祉士指定科目	必修	担当者名	高橋和幸・駒ヶ嶺裕子			授業 形態	演習	クラス分け	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本科目は、ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、ソーシャルワークの知識と技術の習得及びソーシャルワークの価値規範や倫理の基本的事項の理解を図るために、具体的な援助場面を想定したグループディスカッションやロールプレイング等の活動を中心とする演習形式で行う。</p> <p>ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ(専門)の前段に位置付けられる科目である。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1及び、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達目標	<p>①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的能力を、身につけるための心構えを持つことができている。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解できている。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力の基礎を身につけている。</p> <p>④ソーシャルワークの展開過程において用いられている知識と技術を実践的に理解できている。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	自己覚知と他者理解		自己理解と他者理解について学ぶ。本演習で用いる振り返りシートの記入方法の指導を行う。					振り返りシートの様式説明		
第2回	基本的なコミュニケーション技術(1)		言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約など)を学ぶ。					振り返りシートの記入を課す		
第3回	基本的なコミュニケーション技術(2)		非言語技術(表情、態度、身振り、位置取りなど)を学ぶ。					"		
第4回	基本的な面接技術(1)		面接の構造化、場の設定(面接室・生活場面・自宅など)について学ぶ。					"		
第5回	基本的な面接技術(2)		ソールの活用、電話面接、ウェブ会議システムやe-mailによる情報交換について学ぶ。					"		
第6回	ソーシャルワークの展開過程(1)		事例を用いてケースの発見、インテークまでの過程を学ぶ。					"		
第7回	ソーシャルワークの展開過程(2)		事例を用いてアセスメントの過程を学ぶ。					"		
第8回	ソーシャルワークの展開過程(3)		事例を用いてプランニングの過程を学ぶ。					"		
第9回	ソーシャルワークの展開過程(4)		事例を用いて支援の実施とモニタリングまでの過程を学ぶ。					"		
第10回	ソーシャルワークの展開過程(5)		事例を用いて支援の終結と事後評価、アフターケアまでの過程を学ぶ。					"		
第11回	ソーシャルワークの記録		支援経過の把握と記録について学ぶ。					"		
第12回	グループダイナミクスの活用		グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)について学ぶ。					"		
第13回	グループワークの展開過程		事例を用いて準備期・開始期・作業機・終結期までの流れを学ぶ。					"		
第14回	プレゼンテーションの技術(1)		個人プレゼンテーションを体験する。					2週にわたってプレゼンテーションを行う。		
第15回	プレゼンテーションの技術(2)		グループプレゼンテーションを体験する。					定期試験に替えるレポートの課題を発表		
評価方法及び評価基準	<p>○平常点評価65%とレポート試験35%による総合評価とする。</p> <p>・「演習授業における達成度をみるために毎回振り返りシートの作成4点満点×12回(第1回と第14/15回を除く)=48点満点」+「第14回15回のプレゼンテーション資料の作成と発表17点満点」+「定期試験に替えるレポート35点満点」で評価をする。ルーブリック評価による評価を実施するので第1回オリエンテーション時に説明を行う。なお、3分の1以上(5回)欠席した学生は評価の対象としない。</p>									
課題等	授業終わりに振り返りシートを課し、次回授業で返却する。期末レポート試験の課題はオンライン授業ファイルを通じて配布する。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	教科書 社会福祉士養成講座編(2021年)『13巻 ソーシャルワーク演習(共通)』中央法規 ISBN 978-4-8058-8243-6 参考書 いたう総研(2023年)『見て覚える国試ナビ2024』(中央法規) ※毎年7月発行のため最新版を入手してください。									
留意点	演習では積極的発言と共同作業が求められる。能動的学習姿勢での参加を求める。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ 【2021年度以降入学生】		科目コード	W32040	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-05	時間	30時間				
区分	社会福祉系系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	柘植 秀通・丸山 龍太・高橋 和幸			授業 形態	演習	クラス分け	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。また、社会福祉士に求められるソーシャルワーカーの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。さらに、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について基礎的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得することができる。また、社会福祉士に求められるソーシャルワーカーの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養うことができる。さらに、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について基礎的に理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	ソーシャルワーカーの価値と倫理			事例を通じてソーシャルワーカーの価値と倫理について学ぶ。また、本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。				予習シートと振り返りシートの様式説明		
第2回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(1)			複雑な家庭環境にあり特に児童虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第3回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(2)			複雑な家庭環境にあり特に障害者虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第4回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(3)			複雑な家庭環境にあり特に高齢者虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第5回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(4)			複雑な家庭環境にあり特に配偶者虐待が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第6回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(5)			複雑な家庭環境にあり特にひきこもりの人が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第7回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(6)			複雑な家庭環境にあり特に貧困問題が発生しているケースの事例検討を行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第8回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(7)			複雑な家庭環境にあり特に終末期ケアの状態の人が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第9回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(8)			被災に伴い複雑な家庭環境となり、失業、貧困、アルコール依存症の人が発生しているケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第10回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(9)			複雑な家庭環境にあり特に8050問題のようなケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第11回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(10)			要介護高齢者の発生に加え、障害を有する子ども2人のトリプルケアのようなケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第12回	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは(11)			夫の不就業と妻へのDV、それに伴う子どもの深夜徘徊、飲酒などの非行が絶えず、不登校時のいる家庭のケースで事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第13回	その他の危機状態にある事例に対する総合的かつ包括的な支援の実践とは			精神疾患を患い孤立し、ごみ屋敷状態で、社会的な支援を拒み続けるケースの事例検討を行う。その後、ソーシャルワークの場面や過程についてロールプレイを行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第14回	ソーシャルワーカーが関わる権利擁護活動を通じたソーシャルアクション			外国人労働者家庭を地域で支えていくために生じた様々な問題とその支援過程から学ぶ。事例を踏まえて意見交換を行う。				予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。		
第15回	演習全体のまとめ			演習全体のまとめをおこなう。				総合的振り返り。グループワーク		
評価 方法及び 評価 基準	第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらい、予習シート50%、振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらい、なお、出席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。									
課題等	毎回、次回授業のワークシートに関する予習(予習シート)を課す。これにより事前学習とする。また、当日提供するワークシートにある、それぞれのピネットに関する情報を授業後に読み返すことが事後学習となる。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は①社会福祉士養成講座編(2021)『第7巻 ソーシャルワーク演習(社会専門)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8250-4、②社会福祉士養成講座編(2021)『第13巻 ソーシャルワーク演習(共通科目)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8242-6、2冊を使用する。									
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ 【2021年度以降入学生】		科目コード	W32041	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-06	時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	柘植 秀通・丸山 龍太・高橋 和幸			授業形態	演習	クラス分け	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。また、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について基礎的に理解する。さらに、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得することができる。また、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について理解することができる。さらに、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解することができる。</p>									
授業計画										
回	主 題		授業内容						備考	
第1回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程		ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程について学ぶ。本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。						予習シートと振り返りシートの様式説明	
第2回	実践モデルとアプローチ(1)		実践モデルとアプローチについて再確認する。1つの事例を使って、各アプローチ方法でアセスメント結果が少しずつ異なっていくことを体験的に学ぶ。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第3回	実践モデルとアプローチ(2)		前回に続き、1つの事例を使って、各アプローチ方法でアセスメント結果が少しずつ異なっていくことを体験的に学ぶ。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第4回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(1)		事例を通じて、ケースの発見場面を体験する、ロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第5回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(2)		事例を通じて、インテーク場面を体験する、ロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第6回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(3)		事例を通じて、アセスメント場面を体験する、クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第7回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(4)		プランニング① アセスメント結果を踏まえプランニングの下書きをする。その下書きについて意見交換する。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第8回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(5)		プランニング② 前回の授業成果を踏まえて支援計画を立て、説明場面をロールプレイで再現する						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第9回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(6)		事例を通じて、支援の実施場面について学ぶ。適宜ロールプレイを行う。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第10回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(7)		事例を通じてモニタリングの場面について学ぶ。クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第11回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(8)		事例を通じて支援の終結と事後評価の場面を学ぶ。クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第12回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(9)		事例を通じてアフターケアの場面を学ぶ。クライアントとの面接場面についてロールプレイを行う						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第13回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(10)		特にアウトリーチが有効な事例を複数用意し、事例検討する。家庭訪問での面接場面をロールプレイで再現する。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第14回	事例を通じてソーシャルワークの場面及び過程を学ぶ(11)		チームアプローチが有効な事例を複数用意し、事例検討する。多職種チームによるカンファレンス時の司会者であるソーシャルワーカーの立場となって会議の進行をロールプレイで学ぶ。						予習シートと振り返りシートによる評価。予習結果発表によるアクティブラーニング及びグループワーク。	
第15回	演習全体のまとめ		演習全体のまとめをおこなう。						最終回に授業評価アンケートがある。グループワーク	
評価方法及び評価基準	<p>第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらい、予習シート50%・振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらい、なお、出席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。</p>									
課題等	<p>毎回、次回授業のワークシートに関する予習(予習シート)を課す。これにより事前学習とする。また、当日提供するワークシートにある、それぞれのピネットに関する情報を授業後に読み返すことが事後学習となる。</p>									
事前事後学修	<p>「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。</p>									
教材教科書参考書	<p>教科書は①社会福祉士養成講座編(2021)『第7巻 ソーシャルワーク演習(社会専門)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8250-4、②社会福祉士養成講座編(2021)『第13巻 ソーシャルワーク演習(共通科目)』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8242-6、2冊を使用する。</p>									
留意点	<p>演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。</p>									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ		科目コード	W32042	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-07						
区分	専門実践領域科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小川幸裕・丸山龍太				授業 形態	演習	クラス分け
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。また、地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解することができる。また、地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	プレゼンテーションについて			プレゼンテーションについて学ぶ。本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。				予習シートと振り返りシートの様式説明		
第2回	ネットワーキングについて			事例をつかってネットワーキングについて学ぶ。ネットワーキングの重要性について意見交換する。				予習シートと振り返りシートによる評価		
第3回	コーディネーションについて			事例を使ってコーディネーションについて学ぶ。コーディネーションの重要性について意見交換する。				"		
第4回	ネゴシエーションについて			事例を使ってネゴシエーションについて学ぶ。ネゴシエーションの重要性について意見交換する。				"		
第5回	ソーシャルアクションについて			事例を使ってソーシャルアクションについて学ぶ。ソーシャルアクションの重要性について意見交換する。				"		
第6回	地域住民に対するアウトリーチ			事例を使って地域住民に対するアウトリーチの手法を学ぶ。ロールプレイする。				"		
第7回	地域住民のニーズ把握			事例を使って地域住民のニーズ把握の手法を把握し、その場面を再現する。				"		
第8回	地域アセスメント			事例を使って地域アセスメントを行い、その場面を再現する。				"		
第9回	地域福祉の計画			事例を使って地域の計画の作成手法を学び、必要性を討論する。				"		
第10回	地域における組織化			事例を使って地域における組織化について学び、その場面を再現する。				"		
第11回	社会資源の活用			事例を使って社会資源の活用について学び、その場面を再現する。				"		
第12回	社会資源の調整			事例を使って社会資源の調整について学び、その場面を再現する。				"		
第13回	社会資源の開発			事例を使って社会資源の開発について学び、その場面を再現する。				"		
第14回	サービスの評価			事例を使ってサービスの評価について学び、その場面を再現する。				"		
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめをおこなう。				最終回に授業評価アンケートがある		
評価 方法 及び 評価 基準	第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらう。予習シート50%、振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらう。なお、出席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。									
課題等	毎回、次回授業のワークシートに関する予習(予習シート)を課す。これにより事前学習とする。また、当日提供するワークシートにある、それぞれのピネットに関する情報を授業後に読み返すことが事後学習となる。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『第13巻 ソーシャルワーク演習』中央法規、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ		科目コード	W32043	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	
	科目ナンバリング		W-PPPF2-08							
区分	専門実践領域科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小川幸裕・丸山龍太				授業 形態	演習	クラス分け
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、その意義や方法を具体的に理解する。また、実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、その意義や方法を具体的に理解することかできる。また、実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	事例研究の下準備(1)		実習体験を一般化するためにはソーシャルワークの専門知識が必要である。そのため文献調査の手法について学ぶ。また、本演習で用いる予習シートと振り返りシートの記入方法の指導を行う。					予習シートと振り返りシートの様式説明		
第2回	事例研究の下準備(2)		実習体験から深く考察し、学術的な知識として比較検討したい素材を洗い出す。まずは質よりも量でより多くのトピックを出す。					予習シートと振り返りシートによる評価		
第3回	事例研究をするためのテーマの絞り込み(1)		前回授業で出したトピックの中から、3つ程度に絞り込み、発表する。					"		
第4回	事例研究をするためのテーマの絞り込み(2)		前回授業で絞り込んだ3つのテーマについて、どのような実習経験をし、文献調査結果と比較考察していく。					"		
第5回	事例研究発表に向けた論理展開の確認		前回授業での作業の結果を発表し、出席者からコメントをもらう。					"		
第6回	再分析と結果の吟味、発表の予行		とくに事例研究したい事柄を1つに絞り、より多くの文献を集め、考察していく。					"		
第7回	事例研究発表(1)		教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。					"		
第8回	スーパービジョン(1)		前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。					"		
第9回	事例研究発表(2)		教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。					"		
第10回	スーパービジョン(2)		前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。					"		
第11回	事例研究発表(3)		教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。					"		
第12回	スーパービジョン(3)		前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。					"		
第13回	事例研究発表(4)		教室内での事例研究発表会を開催し、持ち時間15分、質疑応答3分の形式で5人が発表する。出席者は発表者にコメントする。					"		
第14回	スーパービジョン(4)		前回発表者に対して教員がスーパービジョンを行う。					"		
第15回	演習全体のまとめ		演習全体のまとめをおこなう。					最終回到授業評価アンケートを実施		
評価 方法 及び 評価 基準	第1回オリエンテーションと第15回総まとめの時間を除き、全13回演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらう。予習シート50%、振り返りシート50%で総合評価を行う。予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および今後の学習すべき内容を記入してもらう。なお、出席が2/3以上に満たない者は評価の対象としない。									
課題等	毎回、次回授業のワークシートに関する予習(予習シート)を課す。これにより事前学習とする。また、当日提供するワークシートにある、それぞれのピネットに関する情報を授業後に読み返すことが事後学習となる。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『第13巻 ソーシャルワーク演習』中央法規、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。									

科目名	ソーシャルワークの理論と方法（専門）A		科目ナンバリング	W32044	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
区分	専門実践領域科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	葛西 久志				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 ソーシャルワークの基本となるソーシャルワークの概要から展開技法（インテーク、アセスメント、面接技術、グループワーク、アウトリーチ、ケアマネジメント）について学ぶ。また、精神保健福祉分野における家族支援（意識調査、感情表出と再発など）についても学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	①精神障害および精神保健福祉の課題に対するソーシャルワークの過程を理解すること。②精神障害および精神保健福祉の課題をもつ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解すること。③精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義や精神保健福祉の向上について理解すること。									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考	
第1回	ソーシャルワークの概要①	ソーシャルワークの構成要素、展開過程、基本視点、							視聴覚（スライド）使用	
第2回	ソーシャルワークの概要②	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開							視聴覚（スライド）使用	
第3回	ソーシャルワークの展開技法①	インテーク、アセスメント、面接技法							視聴覚（スライド）使用	
第4回	ソーシャルワークの展開技法②	グループワーク、アウトリーチ、事例分析							視聴覚（スライド）使用	
第5回	ソーシャルワークの展開技法③	ケアマネジメント①（ケアマネ誕生、定義、基本理念）							視聴覚（スライド）使用	
第6回	ソーシャルワークの展開技法④	ケアマネジメント②（基本原則、構成要素）							視聴覚（スライド）使用	
第7回	ソーシャルワークの展開技法⑤	ケアマネジメント③（プロセスと機能 相談窓口）							視聴覚（スライド）使用	
第8回	ソーシャルワークの展開技法⑥	ケアマネジメント④（プロセスと機能 アセスメント）							視聴覚（スライド）使用	
第9回	ソーシャルワークの展開技法⑦	ケアマネジメント⑤（プロセスと機能 アセスメント）							視聴覚（スライド）使用	
第10回	ソーシャルワークの展開技法⑧	ケアマネジメント⑥（プロセスと機能 ケア計画の立て方）							視聴覚（スライド）使用	
第11回	ソーシャルワークの展開技法⑨	ケアマネジメント⑦（プロセスと機能 ケア会議の進め方）							視聴覚（スライド）使用	
第12回	ソーシャルワークの展開技法⑩	ケアマネジメント⑧（プロセスと機能 サービス実施、モニタリング、エバリュエーション）							視聴覚（スライド）使用	
第13回	精神保健福祉分野における家族支援	家族の意識調査、家族の感情表出による再発率、支援方法							視聴覚（スライド）使用	
第14回	コミュニティワーク①	コミュニティワークの意義、展開過程							視聴覚（スライド）使用	
第15回	コミュニティワーク②	コミュニティワークの原則、予防的アプローチ							視聴覚（スライド）使用	
評価 方法 及び 評価 基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。レポート課題（20%）定期試験（80%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてのどの程度理解したかを評価する。									
課題等	精神保健福祉士とは、どのような専門職なのかを知るために、精神保健福祉関連の文献等を読む。									
事前事後 学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉関連の書籍等を読む。									
教材 教科書 参考書	最新・精神保健福祉士養成講座 第6巻「ソーシャルワークの理論と方法」（精神専門）中央法規出版（ISBN978-4-8058-8257-3）									
留意点										

科目名	精神保健福祉演習 I		科目コード	W32029	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWPF2-11.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	演習	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ソーシャルワークを展開するうえでインテーク時の面接技術やラポールの形成は欠かせない。その面接技術やラポールを形成するための方法を相談場面を想定しながら心理面、環境面から演習をする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している。									
到達 目標	1. 精神保健福祉士の相談援助における意義について理解する。 2. 相談者を理解し、面接技術を理解する。 3. 記録技術のマッピング技法について説明できる。 4. カンファレンスに基づくチームアプローチを理解する。 5. インテーク、アセスメント、プランニングを理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	オリエンテーション 演習の意義と目的		授業概要の説明、精神保健福祉士の相談援助における意義と位置づけ、演習の目的と内容、方法、心構え					グループワーク ディスカッション		
第2回	相談援助の基盤		自己理解と他者理解、価値と倫理					グループワーク ディスカッション		
第3回	相談援助の基盤		利用者の理解、援助関係の理解					グループワーク ディスカッション		
第4回	相談援助の基盤		コミュニケーション技術、面接技術					グループワーク ディスカッション		
第5回	相談援助の基盤		スーパービジョンとコンサルテーション					グループワーク ディスカッション		
第6回	記録の理解		記録の必要性とその方法、技術					グループワーク ディスカッション		
第7回	チームアプローチの理解		チームアプローチの必要性とその方法について理解					グループワーク ディスカッション		
第8回	チームアプローチの理解		カンファレンス					グループワーク ディスカッション		
第9回	個人に対する相談援助の理解		インテーク、アセスメント、プランニング					グループワーク ディスカッション		
第10回	個人に対する相談援助の理解		支援の実施・モニタリング、評価と終結、多職種連携					グループワーク ディスカッション		
第11回	グループワークにおける相談援助の理解		グループワークの必要性とその理解					グループワーク ディスカッション		
第12回	グループワークにおける相談援助の理解		グループワークの展開過程①～④					グループワーク ディスカッション		
第13回	地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助		ニーズ把握、コミュニティアセスメント					グループワーク ディスカッション		
第14回	地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助		計画策定、社会資源の活用					グループワーク PBL		
第15回	地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助		社会資源の開拓、ネットワーキング、ソーシャルアクション					グループワーク PBL		
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価80%とレポート試験20%で総合評価とする。 ・授業の達成度を見るために授業中に自分の考えを発言する。 ・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。									
課題等	次回授業の授業概要のプリント(または、teams)を配布するため、事前に読んで予習と終了後は復習しておくこと。									
事前事後 学修	日ごろから精神障害者に関する新聞記事や図書を読む習慣を身につけること。									
教材 教科書 参考書	【教科書】最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座13「ソーシャルワーク演習(共通科目)」中央法規978-4-8058-8243-6 【参考書】吉武光世編著『こころを見つけるワークブック』培風館、2010、978-4563052140									
留意点	この科目について2020年度入学以前の学生は(旧カリ対象)ソーシャルワーク演習 I、II、IIIを履修した者に限り免除することができる。また、2021年度入学生からは、(新カリ対象)ソーシャルワーク演習 I を履修した者に限り免除することができる。									

科目名	社会福祉実習基礎論		科目コード	W34110	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-PPPF2-07	時間	30時間				
区分	社会福祉系列科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	柘植秀通・駒ヶ嶺裕子			授業形態	演習	クラス分け	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>大きく二つの内容を学ぶ。一つは、ソーシャルワーク実習の意義と目的及び実習で学ぶべき内容及び実習を行う上で留意すべき事項等を確認し、実習に備えた学びを深める。他の一つは、「実習先施設・機関の業務内容とソーシャルワーカーの役割と業務」をテーマに、ゲストティーチャー（現場勤務の社会福祉士）による講義を通して、実習先施設・機関の特徴や主要な業務内容、ソーシャルワーカーの役割と業務、及び社会福祉実習に向かう心構えなどについてディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p> ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達目標	<p>①ソーシャルワーク実習の意義や目的を自身の言葉で説明することができる。</p> <p>②実習に向けての意識と意欲を高め、積極的な実習前学習に取り組むことができる。</p> <p>③外部講師の講義を通して、実習先施設・機関の特徴や主な業務、ソーシャルワーカーの担う役割等について理解を深める。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	オリエンテーション 予習レポートや振り返りシートの作成		授業内容の説明。 記載すべき内容、記述上の留意点と評価規準等を確認する。					一斉		
第2回	社会福祉実習のねらいと学ぶべき内容		「ソーシャルワーク実習のガイドライン」等を通して、実習の意義と目的及び実習で学ぶべき内容の概略を知る。(教科書:序章&第1章第1節 巻末資料)					一斉		
第3回	実習におけるスーパービジョン		実習スーパービジョンの意義及び実習期間中に行われるスーパービジョンの内容と方法等について理解する。(第1章第2節&第4章第1節)					グループ		
第4回	実習におけるリスクマネジメント		実習に関連したリスクとその対応の仕方を理解する(第1章第5節)					グループ		
第5回	ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解		ソーシャルワーク実習を学ぶ施設・機関について理解する 実習機関・施設におけるソーシャルワーク実習の内容を知る(第2章第3節)					グループ		
第6回	実習施設・機関で求められる価値・知識・技術		「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」や「ソーシャルワーカーの倫理綱領」等で示されているソーシャルワークの価値・知識・技術などについて確認する。(教科書:第3章第1節の4)					グループ		
第7回	ソーシャルワーク実践に求められる技術		ソーシャルワーク実践に求められる技術の目的、方法、留意点を踏まえた上で、その技術について実習を通して学ぶ意義を理解する。(教科書:第6章11節)					グループ		
第8回	外部講師による講義2(高齢者関係予定)		<p>【外部講師による講義】</p> <p>施設・機関の概要とソーシャルワーカーの業務 講義内容は、以下の項目をふまえて構成する。</p> <p>●施設・機関の運営主体、設置の根拠法、対象となる利用者、職員構成、</p>					一斉		
第9回	外部講師による講義3(障害者関係予定)							一斉		
第10回	振り返り		<p>提供するサービス等の紹介</p> <p>●利用者やその関係者(家族・親族・友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</p>					グループ		
第11回	外部講師による講義4(児童関係予定)							一斉		
第12回	外部講師による講義5(社会福祉協議会予定)		<p>●利用者や関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成</p> <p>●利用者や地域の状況理解とその生活課題(ニーズ)の把握</p> <p>●多職種連携及びチームアプローチ</p> <p>●当該実習先が地域社会の中で担っている役割の理解と具体的な地域社会への働き掛け</p> <p>●社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任</p>					一斉		
第13回	振り返り							一斉		
第14回	外部講師による講義6(病院予定)		<p>【振り返り】</p> <p>講義で学んだこと、残された疑問等を中心に発表・協議する。</p>					グループ		
第15回	振り返り							グループ		
評価方法及び評価基準	<p>○外部講師の講義に対するレポート50%、グループ授業の予習・振り返りのレポート50%で評価する。</p> <p>・外部講師の講義・レポートについては、評価基準を印刷・配布し、教員の合意で評価する。</p> <p>・グループ授業における予習・振り返り等についても、上記基準を準用し、各教員が評価する。</p>									
課題等	予習・振り返りシートは点検後に返却するので指摘された箇所訂正を行い、以降の学習に生かすこと。									
事前事後学習	予習・振り返りレポートを作成することを通して事前事後学習を行うこと。									
教材教科書参考書	<p>教科書:日本社会福祉士養成講座編(2021)『第8巻 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習 [社会専門]』中央法規 ISBN9784805882511</p> <p>参考書:『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 ISBN9784623083107 (最新版を用意すること)</p>									
留意点	「社会福祉実習指導Ⅰ」、「社会福祉実習Ⅰ」との関連を見ながら、自主的・積極的に学習に取り組んでほしい。									

科目名	社会福祉実習指導Ⅰ 【2021年度以降入学生】	科目コード	W34111	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PPPF2-08	時間	30時間				
区分	社会福祉系科目 選択	担当者名	柘植秀通・駒ヶ嶺裕子			授業 形態	講義	クラス分け	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 ソーシャルワーク基礎実習の意義を理解し、社会福祉士として求められる役割や、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。さらに、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を修得する。加えて、実習で得た具体的な体験や援助活動を振り返り、実習の成果と課題を整理する。								
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2に関連する								
到達 目標	①ソーシャルワーク基礎実習の意義及び社会福祉士として求められる役割や、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ②ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 ③実習で得た具体的な体験や援助活動を振り返り、実習の成果と課題を実習報告書としてまとめ、発表することができる。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容						備 考	
第1回	社会福祉実習指導の意義・目的 授業方法について	実習指導の意義と目的を確認し、併せて授業方法・授業日程を説明する。 実習生個人調書、誓約書等実習に当たって必要となる書類提出について説明する。(教科書:第1章第1節)						実習前授業 一斉	
第2回	実習先となる施設や機関の理解	実習先となる施設や機関について予習したことを発表する。学生相互にコメントし、実習に出るまでに不足している知識を確認し合う。(第3章第1節)						実習前授業 グループ	
第3回	事前計画指導(1)	実習テーマや達成課題を明確にし、課題の達成に向けてどのような方法で学ぼうとしているかを一人一人発表する。(第3章第2節)						実習前授業 グループ	
第4回	事前計画指導(2)	実習施設・機関のサービス内容、ソーシャルワーカーの役割などについての予習結果と、前週までの学修成果を踏まえて実習計画書の下書きを作成する。						実習前授業 グループ	
第5回	事前計画指導(3)	実習計画書を完成させ、発表する。学生相互にコメントし、コメントを参考に適宜、計画書の修正を行い、担当教員に提出する。						実習前授業 グループ	
第6回	価値と倫理、個人情報保護、利用者のプライバシー の尊重	ソーシャルワーカーの価値と倫理について再確認するとともに、実習中に迷いが生じた場合の対応法について学ぶ。(第3章第1節4 第1章第5節)						実習前授業 グループ	
第7回	実習日誌の書き方	実習日誌の書き方について学ぶ。(第2章第2節)						実習前授業 グループ	
第8回	実習施設・機関への事前訪問に向けた指導	実習計画・テーマや課題の設定理由を実習先の指導者に説明できるように心の準備やロールプレイを行う。また、実習施設・機関のパンフレットで提供するサービス内容や職員配置等の情報収集を行うとともに、施設見学による情報収集を行うことを確認する。(第3章第3節)						実習前授業 グループ	
第9回	実習施設・機関への事前訪問後の指導(1)	事前訪問で実習先の施設・機関のどのような情報が新たに得られたか振り返る。						実習前授業 グループ	
第10回	実習施設・機関への事前訪問後の指導(2)	事前訪問を受けての実習計画書の修正を行う。						実習前授業 グループ	
第11回	実習先で必要とされるソーシャルワークの知識と技 術	履修者各自の実習先で求められるソーシャルワークの知識と技術について考えていることを報告し合う。(第3章第1節4 第6章11節)						実習前授業 グループ	
第12回	実習前面接指導	実習に向けての不安や悩みがないか、実習へのモチベーションの確認を行う。併せて病欠時の連絡、けがや事故発生時の対応などの確認を行う。(第4章第3節第4節)						実習前授業 グループ	
第13回	実習期間中の帰校日指導	実習内容と実習状況の確認、実習計画書に掲げた課題の達成状況を評価する。						実習中	
第14回	実習総括指導(1)	実習で学んできたことの確認、実習計画書に掲げた課題の達成状況を評価し、実習報告書の作成に入る。(第5章 評価表)						実習後授業 グループ	
第15回	実習総括指導(2)	実習報告書をクラス内で発表し、適宜修正した後、完成原稿を提出する。						実習後授業 グループ	
評価 方法 及び 評価 基準	○以下を基に総合評価を行う。 ・実習先に関する情報収集レポート(20%) ・実習計画書の作成(20%) ・毎回の授業後の振り返りシート(20%) ・実習総括書の作成(40%)								
課題等	上記で挙げたレポート等にはコメントを付けて返却するので、各自の振り返りに役立ててほしい。								
事前事後 学修	「事業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分を読み、事前準備の学修を1日当たり30分以上行うこと。復習は、授業での配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。								
教材 教科書 参考書	教科書:日本社会福祉士養成講座編(2021)『第8巻 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習【社会専門】』中央法規 ISBN9784805882511 参考書:『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 ISBN9784623083107 (最新版を用意すること)								
留意点	実習指導は演習形式であるため、積極的発言(発表・コメント)や共同作業が求められる。能動的学習姿勢での参加を求める。								

科目名	社会福祉実習指導Ⅱ	科目コード	W34201	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-02.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	松本 郁代・小川 幸裕・高橋 和幸・丸山 龍太・駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	講義	クラス分
	社会福祉士指定科目 必修								
授業の概要	〔授業の主旨〕 〔キーワード：準備、計画、実践、振り返り〕 多様な場・形態で存在するソーシャルワークの実践を理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。さらに、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための能力を習得する。加えて、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。実習前には実習計画書の指導を学内にて行い、実習中は巡回指導、帰校指導を行う。また、実習後は実習成果を学内で振り返り実習総括の報告会や報告書の作成指導を行う。								
	〔ディプロマポリシー（以下DP）及びカリキュラムポリシー（CP）との関連〕 DP 1, 2, 3 CP 1, 2, 4に関連する。								
到達目標	多様な場・形態で存在するソーシャルワークの実践を理解することができる。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養うことができる。さらに、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための能力を習得することができる。加えて、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養することができる。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	オリエンテーション	実習の意義目的、実習指導の意義の理解、受講上の諸注意等を配布書類とともに確認する	前半合同、後半グループ	第16回	オリエンテーション	①後期スケジュールと実習報告会についての確認 ②実習総括書の様式説明、説明後は各教室に移動	前半合同、後半グループ		
第2回	事前学習1	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（施設・機関の特性、法的根拠、利用者特性、サービスの内容等）	グループディスカッション	第17回	実習振り返り1	実習体験と実習日誌を踏まえた課題の整理を行う	グループディスカッション		
第3回	事前学習2	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（施設・機関の特性、職員配置、他の職種との業務連携）	グループディスカッション	第18回	実習振り返り2	前回の課題整理作業を踏まえ、①グループで振り返り、②実習報告会の報告内容の検討	グループディスカッション		
第4回	事前学習3	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（実習先施設と関連のある機関・事業所との多機関連携について）	グループディスカッション	第19回	実習振り返り3	①個別スーパービジョン、②グループで振り返り、③実習報告会のレジュメ下書き作業	グループディスカッション		
第5回	事前学習4	①事前学習を行う（求められるSWの価値・理念）	グループディスカッション	第20回	実習報告準備1	実習報告会に備え準備を行う、報告会レジュメを用いて発表模擬練習を行う	グループディスカッション		
第6回	事前学習5	①事前学習を行う（求められるSWの価値・理念、プライバシー保護と守秘義務）	グループディスカッション	第21回	実習報告準備2	実習報告会レジュメを用いて発表模擬練習を行う。発表レジュメの校正と発表内容の吟味	グループディスカッション		
第7回	事前学習6	①実習計画書の仮案の発表と質疑応答、課題の明確化を行う	グループディスカッション	第22回	実習報告準備3	実習報告会に備え準備を行う、当日の役割分担に話し合う（司会・タイムキーパー・書記）	グループディスカッション		
第8回	事前学習7	①実習時のスーパービジョンについて理解を深める	グループディスカッション	第23回	実習報告（総括）会1	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション		
第9回	実習準備1	①実習先事前訪問の意義、目的等を確認する。②事前訪問日時の予約	グループディスカッション	第24回	実習報告（総括）会2	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション		
第10回	実習準備2	①実習計画書の作成指導 ②実習日誌の記載法の留意点等を確認する	グループディスカッション	第25回	実習報告（総括）会3	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション		
第11回	実習準備3	①実習計画書の作成指導 ②事前訪問時の見学で得た施設・機関の対象者、サービス内容、職員配置、他の職種の専門性、地域	グループディスカッション	第26回	実習報告（総括）会4	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション		
第12回	実習準備4	①事前訪問の結果を踏まえ計画書の修正を行う	グループディスカッション	第27回	実習報告（総括）会5	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション		
第13回	実習準備5	①実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成過程を振り返る	グループディスカッション	第28回	実習総括書作成	実習総括書の下書きを発表し合い、助言を得て修正ポイントを把握する	グループディスカッション		
第14回	実習準備6	①最終確定版の実習計画について発表を行い、出席学生からコメントをもらう。	グループディスカッション	第29回	実習総括書最終校正	実習総括書の修正、完成を図る	グループディスカッション		
第15回	実習準備7	①病欠、事故やケガの発生時の対応等、実習上の諸注意。②利用者や地域の状況を理解するためのアセスメントツール、支援計画作成及び評価を経験できるような様式の確認、記載方法について学ぶ。	グループディスカッション	第30回	振り返り	提出した実習総括書を出席者全員で輪読し、1年間のまとめを行う	グループディスカッション		
評価方法及び評価基準	実習に向けての準備50%と実習後における振り返り50%で評価する。実習に向けての準備には実習計画書の作成が含まれる。実習後における振り返りには報告会の準備と報告、個人総括書作成が含まれる。 なお、第1回ガイダンスで各種提出書類（個人調査書・誓約書・科目等履修状況・実習計画書・報告会レジュメ・個人総括書）の締切日時を提示するので厳守のこと。これらの提出書類について締切を1回でも守らない場合は、単位認定できないので注意すること。								
課題等	上記の通り、実習計画書・報告会レジュメ・実習総括書の作成の他、必要に応じて適宜指示する。								
事前事後学修	事前学習では指定のテキストや社会福祉実習の手引きを読んでもらう。事後学習では更に知識を深めるために社会福祉小六法を活用して関係法令を調べ補足する。また、演習中に疑問に感じたことや知識不足を感じた箇所についてはその解消に向けて文献などを調べ補足する。								
教材 教科書 参考書	社会福祉士養成講座編（2021）『第8巻 ソーシャルワーク実習指導・実習』中央法規 ミネルヴァ書房編集部編（2023）『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房								
留意点	実際に実習へ出て行くことを前提に、全ての行動を律するように。								

科目名	精神保健福祉実習指導 I	科目コード	W35004	単位数 時間	1単位 15時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	W-PWSF1-06.						
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	葛西 久志				授業 形態	講義	単独
	精神保健福祉士指定科目 必修								
授業の 概要	[授業の主旨] 精神保健福祉実習の意義・目的について理解しながら、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。ここでは、精神保健福祉実習の事前学習として精神障害者の様々な問題に取り組む。そして、精神保健福祉の援助・支援に係る基礎的知識、技術と価値について具体的かつ実際に理解できるよう学生自ら調べ説明する。そして、さらに、教員からの助言と地域からゲストスピーカーを招聘して概説していただく。								
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。								
到達 目標	本科目は、精神保健福祉実習の事前学習として、精神保健福祉の援助に係る基礎的知識、技術と価値について具体的かつ実際に理解できるよう学生自ら調べ報告する。また配属実習先施設・機関等を体系的に理解しながら実習に臨む基礎的実力を身につける。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導 I の意義・目的（個別・集団指導の意義）							
第2回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解①	学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説						プレゼン& グループワーク	
第3回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解②	学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説						プレゼン& グループワーク	
第4回	実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解①	実習した先輩との情報懇談（精神科病院、地域活動支援センター等での実習機関の情報収集・共有）							
第5回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解③	学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説						プレゼン& グループワーク	
第6回	現場体験学習及び見学実習	精神科病院、デイケアセンター、グループホームの見学							
第7回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解④	学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説						プレゼン& グループワーク	
第8回	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	ピアの方をゲストスピーカーとして招聘し、当事者理解を図る							
第9回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解⑤	学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説						プレゼン& グループワーク	
第10回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解⑥	学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説						プレゼン& グループワーク	
第11回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解⑦	学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説						プレゼン& グループワーク	
第12回	実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解②	学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説						プレゼン& グループワーク	
第13回	実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解③	学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説						プレゼン& グループワーク	
第14回	実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解④	学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説						プレゼン& グループワーク	
第15回	実習の評価全体総括会（精神保健福祉実習報告会への参加）	実習した先輩方の精神保健福祉実習報告会に参加						報告会の実務実施（司会など）	
評価 方法及び 評価 基準	出席が5分の4に満たない者は評価の対象としない。レジュメ作成・報告（60%）と、レポート課題（40%）で評価する。毎回のテーマの下調べした内容とプレゼンを評価する。また、レポート課題は指定本を読み、どの程度理解したか評価する。								
課題等	冬休み課題：相川章子、他（2009）「かかわりの途上で」へるす出版 春休み課題：名城健二（2011）「精神科ソーシャルワーカーの実践とかかわり」中央法規出版を読んでレポート提出する。								
事前事後学 修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。各課題別担当者（チューター）は、レジュメを作成し、グループで検討したいテーマを上げ、ディスカッションできるように進行する。ディスカッション後、各自フィードバック作業を行う。								
教材 教科書 参考書	①精神保健福祉実習の手引きの一部抜粋（配布予定） ②山本深雪、他（2005）「知っていますか？精神障害者問題一問一答」解放出版社（ISBN4-7592-8247-5）								
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。								

科目名	専門演習 I	科目コード	W44105		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09.H							
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	石田 和男				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 本テーマである「動物性」(アニマリティ)は、欧米では動物倫理、ダイバーシティ、環境論、動物行動論と、多様な領域で研究されている。そして、いまや農福連携において重要なテーマとなっている。共感性や感情移入という新たな人類の能力であるEQの開発が求められている。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 また、エンパシー(Empathy)の理解をすすめる。 それが他者性(ジェンダー、子ども、外国人、動物、障がい者)の理解へと向かう。									
到達 目標	テーマそれ自体に関する理解にとどまらず、それをいかに掘り下げ、再構成し、伝えられるかといった方法論をめぐっても、より精通することを目指す。 毎回、テーマごとに感想を文章または絵で表現してもらう。その作業を通じて、動物性、感情、移入(Empathy)への理解を高める。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考			
第1回	訪問	動物学の世界観、環世界		第16回	ノロジカの出現	動物世界の何かに接触				
第2回	昼食の食卓にて	モザイクの問題:全体と部分		第17回	接近	人間と獣の間の限界				
第3回	あずまやにて	形式と意味、知覚標識		第18回	獣たちの場所	神々はここにいる				
第4回	川原にて	パラ生物学的局面、環世界間交流		第19回	失われた内奥性	旧石器時代の絵				
第5回	ドラマとしての生	生存競争、向目的的変異		第20回	寓話からの解放	動物の思考				
第6回	役割、生の場面	ダーウインの進化論、生のドラマ		第21回	開かれた世界	闘の経験、脱人間中心主義				
第7回	館の池の畔にて	役割のための衣装、器官の身体		第22回	目を睨る能力	アウラのシステム				
第8回	構成のトーン	生命のメロディー、構造化か総譜		第23回	形成をめぐって	リルケとハイデガー				
第9回	種の起源	存在形式全体の変容		第24回	考える人	テンブルムと鳥たち				
第10回	遠乗り	知覚と認識、シェーマー意味信号		第25回	思考不可能なもの	「アントン・ライザー」の彷徨				
第11回	夕食の食卓にて	パブロフの反射、空間の勾配		第26回	動物たちの視覚	アホロートルとの出会い				
第12回	海辺のテラスにて	感覚能力、想像能力、論理能力		第27回	植物の形態	種子と果実という生				
第13回	二人の論戦	動物学者の象徴、生物学者の象徴		第28回	動物の形態	従属栄養生物の形態的展開				
第14回	第3日	シュペーマンの形成体		第29回	ロバのまなざし	カラヴァッジョの思考性の次元				
第15回	洞窟の比喩	人間の環世界		第30回	犬のまなざし	ピエロ・ディ・コジモのまなざし				
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者をつくる、その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。									
課題等	各回の主題についてテキストを読み、イメージを作る。後にノートを提出(週に1回)									
事前 事後 学修	授業では理解できないことを発信し、クリアにする。それを復習で文章化すること。									
教材 教科書 参考書	『思考する動物たち』J・Cパイイ、出版館ブッククラブ ISBN:978-4915884696。									
留意点	ジャンルにとらわれない思考を獲得するのに格好の機会となるでしょう。 毎回、テーマに関する印象を絵や詩で表現する。そのための白紙のノート持参のこと。									

科目名	専門演習 I		科目コード	W44101	単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H							
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 各自が年間を通じて取り組みたいテーマを見つけ、発表し、討論を通じて一定の結論に到達できるようにする。担当者の専門は法学（憲法学）であるから、社会福祉の専門的な知見を期待されても応えることは難しいかもしれないが、社会福祉の実践と密接に関わる人権論や、そもそもの学問としての論理性といった部分では、多少なりとも有益な関わりができるかもしれない。履修者の人数次第だが、基本的には、毎回のレジュメ作成と発表を義務づけたい。また、単に、他人の発表の聞き役におさまることなく、積極的に質疑応答を重ねていくことも期待したい。司会等が履修者によって行われることも期待したい。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している										
到達 目標	テーマに関する表面的な理解で満足せずに、そこからどういった問題に派生していくか、どういった問題が解明できるかなどを根気よく追求する力を身につけることを目指す。喩えていえば、ゴールではなくスタートラインとなることを目指す。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	ガイダンス	何を研究したいか？				第16回	課題の再検討	テーマの再検討			
第2回	ガイダンス	何を研究したいか？				第17回	課題の再検討	テーマの再検討			
第3回	課題の設定	テーマの設定				第18回	発表と討論	発表と討論			
第4回	課題の設定	テーマの設定				第19回	発表と討論	発表と討論			
第5回	課題の追求	論理の組み立て				第20回	発表と討論	発表と討論			
第6回	課題の追求	論理の組み立て				第21回	発表と討論	発表と討論			
第7回	発表と討論	発表と討論				第22回	発表と討論	発表と討論			
第8回	発表と討論	発表と討論				第23回	発表と討論	発表と討論			
第9回	発表と討論	発表と討論				第24回	発表と討論	発表と討論			
第10回	発表と討論	発表と討論				第25回	発表と討論	発表と討論			
第11回	発表と討論	発表と討論				第26回	発表と討論	発表と討論			
第12回	発表と討論	発表と討論				第27回	発表と討論	発表と討論			
第13回	発表と討論	発表と討論				第28回	発表と討論	発表と討論			
第14回	発表と討論	発表と討論				第29回	発表と討論	発表と討論			
第15回	総括	前期の振り返り				第30回	総括	年間の振り返り			
評価 方法 及び 評価 基準	特に試験等は実施しないが、主に各自の発表や討論への取り組みを評価の対象とする。毎回、ディスカッションを行う。										
課題等	特になし										
事前事 後学修	事前については、特に発表の準備を綿密に行うこと。事後については、他者の発表で得られた知見をしっかりと理解し、自分のものにする。										
教材 教科書 参考書	特に指定しない。										
留意点	特定の事柄について強い関心や豊富な知識を持っていることは要求しないが、何事についても問題意識が希薄な学生は履修を遠慮するのが得策かもしれない。										

科目名	専門演習 I		科目コード	W44102	単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
	科目ナンバリング		W-PWSF2-09. H	時間	60時間					
区分	社会福祉専門教育科目 必修		担当者名	葛西 久志			授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 障害者の権利（解放出版社）からテーマを取り上げ研究レポート作成し発表する。また、現場に出向き障害者や支援者と交流し、問題意識を高める。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの1、4に関連する。									
到達目標	専門演習を通してコミュニケーション力を養い、実践力を身につける。また、様々な問題について自己の考えをまとめ論述し、プレゼンテーションする方法を習得する。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	
第1回	前期オリエンテーション	オリエンテーション（自己紹介+αなど）		プレゼン&グループワーク	第16回	後期オリエンテーション	オリエンテーション（夏期休暇の振り返りなど）		プレゼン&グループワーク	
第2回	グループワーク①	グループワークを行い、学生間のグループダイナミクスを理解する。		プレゼン&グループワーク	第17回	障害者の権利（バリアフリー法とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	
第3回	障害者の権利（出生前診断の是非）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	第18回	障害者の権利（意思疎通困難者の生活支援とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	
第4回	障害者の権利（合理的配慮とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	第19回	障害者の権利（難病法とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	
第5回	障害者の権利（聴覚障がいとは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	第20回	障害者の権利（社会的入院の背景）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	
第6回	障害者の権利（障がい者雇用とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	第21回	障害者の権利（知的障がい者とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	
第7回	障害者施設見学	就労継続支援施設の見学・レポート		プレゼン&グループワーク	第22回	障害者の権利（発達障がいとは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	
第8回	障害者の権利（重度障がい者雇用とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	第23回	障害者の権利（高次脳機能障がいとは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	
第9回	障害者の権利（施設コンフリクトとは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	第24回	障害者の権利（障がい者関連法の改正とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	
第10回	障害者の権利（成年後見人制度とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	第25回	障害者の権利（差別用語とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	
第11回	障害者の権利（重度障害者の生活支援とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	第26回	レク行事（クリスマス）			プレゼン&グループワーク	
第12回	障害者施設見学②	就労支援事業所の見学・レポート		プレゼン&グループワーク	第27回	障害者の権利（人権運動とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	
第13回	障害者の権利（重度障がい者の生活支援とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	第28回	障害者施設見学③	就労支援事業所の見学・レポート		プレゼン&グループワーク	
第14回	障害者の権利（尊厳死とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		プレゼン&グループワーク	第29回	まとめレポートテーマの検討	各自テーマを決めまとめる		プレゼン&グループワーク	
第15回	障害者施設見学②	グループホームの見学・レポート		プレゼン&グループワーク	第30回	まとめレポート報告	各自テーマについて報告する		プレゼン&グループワーク	
評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。レジュメ作成・報告（70%）と、レポート課題（30%）で評価する。各テーマを事前学習し、課題を探しまとめ、自分自身の考えを導き出してプレゼンしたものを評価する。また最終的には障害者の権利についてレポートとしてまとめ報告したものも評価する。									
課題等	毎回課題別テーマをまとめ、プレゼンテーションする。メンバー内でのディスカッション後、フィードバック作業し理解を深める。									
事前事後学修	事前学習では、テキストの課題別テーマをまとめる。専門用語や制度・政策で不明な点についても下調べする。話し合うテーマについて、取り上げた理由を示し、ディスカッション後フィードバックする。									
教材教科書参考書	DPI（障がい者インターナショナル）日本会議編（2016）「知っていますか？障害者の権利一問一答」解放出版社（ISBN978-4-7592-8285-6）									
留意点	提出物の期限などを厳守する。障害者福祉サービス事業所、グループホームなどの見学を行う予定である。									

科目名	専門演習 I		科目コード	W44204	単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H	時間	60時間				
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	高橋 和幸			授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 レポート作成に必要な文献調査やインタビュー調査などの基礎的な知識を修得した後、各自が地域福祉に関する研究テーマを設定して自主的な調査活動を行う。また、その調査結果の中間報告・討論を通じて完成度を高めていく。具体的流れとして前期は、文献収集やインタビュー・参与観察法・アンケート等の様々な調査手法があることを再確認することからはじめる。その上で、興味のあるテーマを設定し、調査するとしたらどんな手法が適しているのか、どのようなデータが必要なのか、といったあたりを皆で話し合っていく。後期には、興味・関心のある分野のテーマを各自が設定し、調査活動に入り、適宜報告しあう。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3に関連し、カリキュラムポリシーの1, 2, 4に関連する。									
到達目標	総仕上げとして調査結果のレポートを作成することが目標となる。また、専門演習Ⅱ(卒業研究含む)へスムーズな接続ができるよう、卒業研究の研究計画書(3年次終了時点での下書き)を仕上げることも目標となる。									
授業計画										
回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ブレン・ストーミングとKJ法による価値交流	ゼミ生同士の信頼関係づくりのため価値交流ゲームを通じた討論	グループワーク	第16回	情報収集した結果を報告し、討論①	夏休みに調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※発表者はレジュメを準備する)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第2回	厚生労働省ほか関係機関のホームページから入手できるデータについて	行政機関が発表する統計データや最新の政策動向を把握する力を養う(次回までに文献調査から得られたことを発表できるようにレポート作成)	Web利用による各自書閲覧	第17回	情報収集した結果を報告し、討論②	夏休みに調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第3回	いろいろな「白書」から学ぶ	行政機関が発表する統計データや最新の政策動向を把握する力を養う(次回までに白書調査から得られたことを発表できるようにレポート作成)	Web利用による各自書閲覧	第18回	情報収集した結果を報告し、討論③	夏休みに調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第4回	各自興味をもったことを持ち寄り、簡単に報告する(意見交換会)	2, 3回の各種白書から得られた知識を報告しあう(次回までに調べてみたい興味の湧いた分野を決める)	グループワーク	第19回	情報収集した結果を報告し、討論④	夏休みに調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第5回	各自興味をもった分野について、更に詳しく図書館で専門書を使って調べる	各自興味をもった分野について、更に詳しく図書館で専門書を使って調べる(次回までにどんな書籍があり先行研究となっているかレポート)	Web利用による先行研究探索	第20回	これまでの小括	調査結果の発表と質疑応答で得られたこと、再調査の必要性について話し合う	グループワーク			
第6回	量的データに関心をもつ	担当教員が行った調査結果を事例に量的データから得られるものを学ぶ	グループワーク	第21回	研究分野が近い学生同士が班になり共同調査に向けて意見交換	研究分野が近い学生同士が班になり共同調査に向けて、テーマ設定のため話し合う	グループワーク			
第7回	厚労省による各種統計データを見る	量的調査結果について興味をもったことを踏まえ、厚労省による各種統計データを見る	Web利用による先行研究探索	第22回	共同調査での経過報告①	調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※発表者はレジュメを準備する)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第8回	どのように統計処理されていたか確認	前回事例としたデータは、どのように統計処理されていたか確認する	グループワーク	第23回	共同調査での経過報告②	調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第9回	観察調査、インタビュー調査などで得られるデータと統計データの違いを感じる	質的データの理解、観察調査、インタビュー調査などで得られるデータと統計データの違いを感じる(次回までに各種調査方法の概要と自分の興味のある手法についてレポート)	グループワーク	第24回	経過報告会での質疑応答を踏まえて、自分の研究計画の練り直し	これまでのゼミ生の各テーマについての報告と質疑応答から学んだこと踏まえて、自分の研究計画の練り直し(次回まで研究計画書を書いて持参)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第10回	いろいろな調査で得られたデータの分析方法について話し合う	自分が興味を持った調査手法について発表しあう	プレゼンテーション・ディスカッション	第25回	データ集め	調査に入り、何をどこまで得ているか中間発表。	プレゼンテーション・ディスカッション			
第11回	レポートの書き方について	レポートの書き方について再確認する	グループワーク	第26回	データの分析や解釈等について討論	データの分析や解釈等について討論する	ディスカッション			
第12回	研究計画の立て方について	研究計画書のサンプルを用い、夏休みに行う調査の構想を練る(次回までに研究計画書下書きを完成させて持参)	プレゼンテーション	第27回	研究レポート執筆状況報告①	調査に入り、何をどこまで得ているか中間発表。(※発表者はレジュメを準備する)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第13回	夏休みに調べるテーマの設定	前週に引き続き、夏休みに行う調査の構想を練る(ゼミ生からの助言を踏まえ研究計画書の修正をしておく)	プレゼンテーション・ディスカッション	第28回	研究レポート執筆状況報告②	調査に入り、何をどこまで得ているか中間発表。(※発表者はレジュメを準備する)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第14回	上の調査計画を発表し、皆で討論	夏休みに行う調査と、その成果として得られそうなことについて話し合う	プレゼンテーション・ディスカッション	第29回	研究レポートの概要の報告会	調査に入り、何をどこまで得ているか中間発表。(※発表者はレジュメを準備する)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第15回	ゼミ前半の振り返り	前半の振り返りと調査結果のレポート提出方法について説明	グループワーク	第30回	一年間の学習成果の振り返り	一年間の学習成果の振り返りと、総仕上げとして調査結果のレポートを提出。				
評価方法及び評価基準	平常点(講義への参加態度)50%、調査レポート50%で評価する。学んだ知識の定着具合をみるため毎回教員が学生に質問して返答をもらう。自分の考えを論理的に発表できるように集中して聴くようにしてもらいたい。また、興味のある領域について調査しレポートを作成してもらう。このレポートについては、関心・意欲・問題解決の思考・判断・技能・表現方法の観点から評価を行う。									
課題等	興味のある領域について調査しレポートを作成してもらう。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、図書館を活用して参考書を調べたり、インターネット情報検索により調べたりすること。事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び教員がその授業回で紹介する参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	その都度資料を配布し、学生の興味のあるテーマに沿って必要な参考書を紹介する。									
留意点	調べてきてくれた仲間の発表をじっくり聞き、楽しく討論することを心がけてください。自分の発表の授業時間を欠席することは、厳に慎んでください。									

科目名	専門演習 I	科目コード	W44104		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09.H							
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	松本 郁代				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 日本における社会福祉のあゆみのうち、社会事業と社会福祉の時期の理論について、文献を読む。その際、指定した文献に掲載されている参考文献や引用文献についても、検索し講読する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 多くの文献検索し、その所蔵先を確認し、取り寄せて読むことを繰り返すことから、丹念に調べる力を身につけることとなる。									
到達 目標	日本における社会事業理論・社会福祉理論について知る。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	社会事業理論史について①	社会福祉理論を歴史的にみる		第16回	社会事業理論の成立①	社会事業対象論・社会行政論				
第2回	社会事業理論史について②	大河内一男・孝橋正一・仲村優一		第17回	社会事業理論の成立②	海野幸徳・山口正・三好豊太郎の思想				
第3回	社会事業理論史について③	社会福祉理論と社会福祉論		第18回	社会事業理論の成立③	社会連帯「左派」の社会事業論				
第4回	日本における慈善・救済論の系譜①	日本仏教の慈善論		第19回	社会事業理論の成立④	唯物弁証法的社会事業論・ケースワーク論の導入とセツルメント論				
第5回	日本における慈善・救済論の系譜②	近世儒学の救済論		第20回	戦時下における社会事業理論の形成、厚生事業論①	社会学者の社会事業論				
第6回	産業革命期の社会改良・慈善事業論①	下層社会の調査研究、明治の救済論		第21回	戦時下における社会事業理論の形成、厚生事業論②	戦時厚生事業論				
第7回	産業革命期の社会改良・慈善事業論②	明治期の社会改良論		第22回	戦時下における社会事業理論の形成、厚生事業論③	個別生活指導論・地域厚生事業論				
第8回	産業革命期の社会改良・慈善事業論③	留岡幸助の思想、近代施設処遇論		第23回	戦後の社会事業論①	敗戦後の貧困研究				
第9回	帝国主義形成期の救済論①	貧困論・救済事業論		第24回	戦後の社会事業論②	孝橋正一・岡村重夫・竹中勝男				
第10回	帝国主義形成期の救済論②	井上友一・小河滋次郎の思想		第25回	戦後の社会事業論③	行政関係者の社会事業論、社会事業の方法技術論				
第11回	帝国主義形成期の救済論③	宗教者の慈善・救済論		第26回	高度成長・減速経済期の社会福祉理論①	生活論と貧困論				
第12回	大正デモクラシー期の社会事業論①	『貧乏物語』・『女工哀史』		第27回	高度成長・減速経済期の社会福祉理論②	高度成長期の社会福祉論				
第13回	大正デモクラシー期の社会事業論②	大正期民主主義者の社会事業論		第28回	高度成長・減速経済期の社会福祉理論③	真田是・一番ヶ瀬康子・高島進				
第14回	大正デモクラシー期の社会事業論③	内務省社会局官僚の社会事業論		第29回	現在の社会福祉理論①	社会福祉改革を巡って				
第15回	大正デモクラシー期の社会事業論④	宗教者の社会事業論、方面委員制度、地域社会事業論		第30回	現在の社会福祉理論②	新政策論、社会福祉方法論の統合化理論				
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点とレポートを3対1の割合で評価する。									
課題等	その都度、指示をする。毎時間、レジュメを作成して報告をすることとなる。									
事前事後学修	社会福祉発達史で使用した教材・ノートを持参すること。毎回指示する文献を演習前に読んでおくこと。									
教材 教科書 参考書	吉田久一（1995）『日本社会福祉理論史』勁草書房、ISBN:4-326-65186-5									
留意点	「社会福祉発達史A・B」を修得していること。									

科目名	専門演習 I	科目コード	W44205		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H							
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	棟方 達也			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>このゼミでは、社会福祉に関する直接的、専門的な内容を主題としていない。専門に扱うのはアウトドアスポーツである。情報収集や文献研究は勿論だが(情報リテラシー、ICT活用)、実技(実践)を重視し、アウトドアにおける様々な活動の計画、準備、実践、記録、報告等を通して課題の設定からその解決方法を模索し結論に到達する過程を学ぶ。「グループワーク」、「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」及び「反転学習」等のアクティブラーニング要素を含む。</p> <p>【対象となりうる主な種目】スノースポーツ、シーカヤック、スクーバダイビング、山岳活動、サイクリング 等</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2及び3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>・年3回の実習全てに参加する。 ・1つの活動を計画から実践を経て報告書にまとめあげ発表(プレゼンテーション)して完結させる。</p> <p>・専門演習Ⅱを受講する人は、卒業研究に向けてアウトドアスポーツに関するテーマの絞り込みをスタートする。</p>									
授業計画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	年間計画	季節に応じた種目選択と実施計画	受講者数を考慮	第16回	夏実習総括	報告書作成と発表(行動記録、データ等の整理、ppt.準備)	プレゼンテーション			
第2回	アウトドアスポーツ実践の基礎	情報収集と情報の活用		第17回	秋実習のための基礎知識と情報収集1	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他				
第3回	アウトドアスポーツ実践の基礎	アウトドア系専門用語(報告に向けた下調べ)		第18回	秋実習のための基礎知識と情報収集2	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他				
第4回	アウトドアスポーツ実践の基礎	装備の活用と管理(報告に向けた下調べ)		第19回	秋実習の計画と準備	日程、装備、食事、交通手段 その他				
第5回	アウトドアスポーツ実践の基礎	食材・食品の知識と活用(報告に向けた下調べ)		第20回	秋実習	[例] 山岳活動、サイクリング等から1種目	フィールドワーク			
第6回	アウトドアスポーツ実践の基礎	現地情報とその分析		第21回						
第7回	アウトドアスポーツ実践の基礎	ロープワーク、安全対策 その他(報告に向けた下調べ)		第22回	秋実習総括	報告書作成と発表(行動記録、データ等の整理、ppt.準備)	プレゼンテーション			
第8回	アウトドアスポーツ実践の基礎	読図&コンパスワーク その他(報告に向けた下調べ)	フィールドワーク	第23回	共通演習4	映像、画像の扱い方(データの収集)				
第9回	アウトドアスポーツ実践の基礎	各種計画法:食料、装備、行動 その他		第24回	冬実習のための基礎知識と情報収集1	装備、安全対策 その他(必要に応じて事前実践学習)				
第10回	アウトドアスポーツ実践の基礎	傷害と救急処置(反復練習)		第25回	冬実習のための基礎知識と情報収集2	用具と技術(必要に応じて事前実践学習)				
第11回	夏実習のための基礎知識と情報収集1	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他(種目選択)		第26回	冬実習の計画と準備	種目、日程、装備、食事、交通手段 等について				
第12回	夏実習のための基礎知識と情報収集2	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他		第27回	冬実習	スノースポーツ				
第13回	夏実習の計画と準備	日程、装備、食事、交通手段、個別活動等について		第28回						
第14回	夏実習	[例] シーカヤック、スクーバダイビング、山岳活動、サイクリング 等から1種目以上	フィールドワーク	第29回	冬実習総括	報告書作成と発表(行動記録、データ等の整理、ppt.準備)	プレゼンテーション			
第15回				第30回	年間総括	全体の振り返り、補足及び専門演習Ⅱへ向けて				
評価方法及び評価基準	出席状況及び実習実施状況:50%(3回の実習を全てクリアすること。夏休み中、社会福祉実習等で参加できない場合は、他の日程や内容で代替実施する場合もある。) 報告及び発表:50%(求められる内容を正しく理解し、指定された形式でまとめられているかを評価する。) 活動への積極性を重視する。									
課題等	アウトドアにおける様々な活動の計画、準備、実践、記録、報告等を通して課題の設定からその解決方法を模索し結論に到達する過程を学ぶ。									
事前事後学修	全ての事前学修は、実践(実習)を前提としている。また、実践(実習)後の総括(報告)は、次の実習の土台となる。実技の実践(フィールドワーク)を伴うため、授業時間内で完結できない場合は、土日祝日や平日の空き時間を積極的に活用することになる。									
教材教科書参考書	種目により、必要に応じてその都度、指定または提供する。									
留意点	原則、人間科学コース所属の学生を前提としている。内容が特殊であるので、登録前に必ず面談し適性や内容の確認をすること。(Teamsのチャットによるアポイント可) 土日や長期休業期間を利用した学外活動が多く、交通費や装備費等の実費負担も相応にあります。アウトドアと運動が好きであれば、性別、経験、運動能力は問いません。但し、喫煙者お断り。※1~2年次において、スポーツ科学実技の中の指定科目(シラバスの「授業の概要」参照)を1つ以上受講していることが望ましい。									

科目名	専門演習 I		科目コード	W44201	単位数	4単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H	時間	60時間					
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	小川 幸裕				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>[授業の主旨]</p> <p>ソーシャルワーク、独立型社会福祉士、社会福祉士、権利擁護に関する文献を講読する。毎回、担当者を決め担当箇所のレジメを作成する。作成したレジメをもとに報告を行い、それについて全体で討論する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2及び4に関連している。</p>										
到達 目標	<p>(1) ソーシャルワークに関する文献を読むことができる。</p> <p>(2) 社会福祉士の活動について説明できる。</p> <p>(3) 社会課題の背景と構造についてソーシャルワークの視点から説明できる。</p> <p>(4) 社会課題への対応についてソーシャルワークの視点から説明できる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考
第1回	オリエンテーション	1) 演習授業の進め方の説明 2) グループワークの心構え				第16回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第2回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第17回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第3回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第18回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第4回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第19回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第5回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第20回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第6回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第21回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第7回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第22回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第8回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第23回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第9回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第24回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第10回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第25回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第11回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第26回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第12回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第27回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第13回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第28回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第14回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第29回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
第15回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン	第30回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論			ディス カッショ ン
評価 方法 及び 評価 基準	<p>レジメ作成50%、報告50%</p> <p>レジメの作成は、ソーシャルワークおよび独立型社会福祉士に関する先行研究の収集および整理、構成と文章力、その内容の論理性などをルーブリックを用いて評価する。</p> <p>報告は、発言頻度やその内容を評価する。</p>										
課題等	フィードバックとして報告内容やレジメについてコメントを返します。										
事前事後学 修	演習時にて次回予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。										
教材 教科書 参考書	テーマの設定後に決定する。										
留意点	卒業論文の執筆に向けて、自分自身のテーマを見つけ、それを文章および文字で表現するという作業に丁寧に取り組むことを期待する。ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある。										

科目名	専門演習 I	科目コード	W44303		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H							
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>[授業の主旨]</p> <p>本演習では、文章の読解、および文章の執筆という作業を通して、論理的思考力を養成する。前期は、社会学系の文献(社会問題、社会意識、コミュニケーション、ネットワーク等の分野)を講読し、後期は、自らの関心に基づいて設定したテーマについて、小論文を作成する</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、カリキュラムポリシーの3に関連する</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読む力をつける 自分の関心を掘り下げ、問いを設定できるようになる 論理的な文章を書けるようになる 									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ガイダンス	演習の進め方について		第16回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第2回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第17回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第3回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第18回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第4回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第19回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第5回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第20回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第6回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第21回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第7回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第22回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第8回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第23回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第9回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第24回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第10回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第25回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第11回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第26回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第12回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第27回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第13回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第28回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第14回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第29回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第15回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第30回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、報告、小論文を総合的に評価します									
課題等	課題の検討は授業時間内に行います									
事前事後学修	使用するテキストを読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	講読する文献は、事前の合同ゼミ説明会の際に提示します。									
留意点										

科目名	専門演習 I	科目コード	W44302		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	3年	開講 学期	通年	
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H								
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	柘植 秀通				授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕児童福祉において、遊びという要素は、年齢・障害のあるなしを問わず重要です。この授業では、そうした遊びについて、地域の子どもたちと実際の交わりを通して経験していくことを中心とする。その経験を通して、さらに理論構築もできるように努める。また、他の団体が行う子どもとの交わりのプログラムにも参加する予定であるので、特に他の団体の方々と交わりや、計画への参加も行う。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。										
到達 目標	福祉施設の子どもたちの遊び指導において、実際に活動できるだけの知識と技能を身につける。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	オリエンテーション	授業の概要紹介				第16回	遊び指導 1 3	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク
第2回	相互交流	グループで、ゲーム等を通して、まず学生同士が交流を行う。			グループワーク	第17回	遊び指導 1 4	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク
第3回	遊び指導 1	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第18回	遊び指導 1 5	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク
第4回	遊び指導 2	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第19回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する			グループワーク
第5回	遊び指導 3	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第20回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する			グループワーク
第6回	遊び指導 4	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第21回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する			グループワーク
第7回	遊び指導 5	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第22回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する			グループワーク
第8回	遊び指導 6	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第23回	遊びの会1回目	焼き芋会などの会を開催する。			グループワーク
第9回	遊び指導 7	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第24回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。			グループワーク
第10回	遊び指導 8	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第25回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。			グループワーク
第11回	遊び指導 9	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第26回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。			グループワーク
第12回	遊び指導 1 0	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第27回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。			グループワーク
第13回	遊び指導 1 1	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第28回	宿題の会 開催	地域の町内会さんと協働で、宿題の会を行う。			グループワーク
第14回	遊び指導 1 2	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する			グループワーク	第29回	振り返り	一年の振り返りを行う			
第15回	振り返り	前期を振り返り、遊びの意味について考察する。			グループワーク	第30回	振り返り	一年の振り返りを行う			
評価 方法及び 評価 基準	授業への参加度50%。実績50%。実績は、児童たちとの関わりの中で、どれだけ積極的に関係を築き、意図的に関与していたかを評価。また、その振り返り等において、どれだけ改善への意欲と分析を行えたかにおいて評価する。										
課題等	随時、終了時に課題を提供し、次回までに提出する。										
事前事後学修	児童と、どのように遊べたか、また、その次には、どのようにしていけばよいかを学ぶ。1時間程度を目安とする。										
教材 教科書 参考書	特になし。										
留意点	児童と直接に交わって遊ぶ機会を作ります。まず、何よりも真剣に児童と遊び、積極的に考えることが出来るようにすることを求めます。特に、子どもたちと交わろうとの意欲のない（能力不足による関わり方の少なさは対象としません）学生については、年度途中でも授業への参加を拒否しますので、注意してください。また、遊びの会を土曜日や休日に、できれば2～3回行いたいと思いますので、土曜日・休日にも出てくるのが可能な人が来てください。										

科目名	専門演習 I	科目コード	W44305	単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09.H	時間	60時間				
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	丸山 龍太			授業形態	演習	単独	
授業の概要	<p>[キーワード: 貧困、スティグマ、生活保護]</p> <p>専門演習 I では、履修者自ら卒業論文執筆に向けてのテーマの設定を行い、研究活動を行う中で、考察を深めることを目的とする。私は、キーワードに記した分野を研究領域としている為、これらに関心のある方を特に歓迎したい。</p> <p>[ディプロマポリシー(以下DP)及びカリキュラムポリシー(CP)との関連]DP1, 2, 3 CP2, 4に関連する。</p>								
到達目標	<p>自らが興味関心のある社会福祉学に関する事柄から研究テーマを設定し、その発表と討論、その後、再テーマ設定と再発表、再討論を繰り返す。この繰り返しから、お互いに社会福祉学の現状と課題に関し理解と考察を深めることができる。</p> <p>これらを通じて、4年次の卒業論文等の作成に向けた準備を完了することを目標とする。</p>								
授業計画									
回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	オリエンテーション	専門演習を始めるにあたってのオリエンテーションを行う		第16回	テーマ設定	前期を踏まえ、研究テーマの再設定等を行う	グループワーク		
第2回	研究方法	研究を進める上での方法を理解し、実際に活用する	グループワーク	第17回	テーマ設定	前期を踏まえ、研究テーマの再設定等を行う	グループワーク		
第3回	研究方法	研究を進める上での方法を理解し、実際に活用する	グループワーク	第18回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第4回	テーマ設定	自ら学びを深めたい事柄を考え、研究テーマを設定する	グループワーク	第19回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第5回	テーマ設定	自ら学びを深めたい事柄を考え、研究テーマを設定する	グループワーク	第20回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第6回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第21回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第7回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第22回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第8回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第23回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第9回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第24回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第10回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第25回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第11回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第26回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第12回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第27回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第13回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第28回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する	プレゼンテーション		
第14回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第29回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する	プレゼンテーション		
第15回	前期の振り返り	これまでの研究成果を踏まえ、後期に向けた課題を整理する		第30回	専門演習 II に向けた準備	次年度専門演習 II に向け、準備を行う			
評価方法及び評価基準	<p>試験は実施しない。各自の発表、討論の取り組み状況等、授業への参加度(100%)で評価する。自ら課題を設定し研究を進めることとなるので、主体的な行動が求められる。主体的な行動が難しい場合、再履修となる可能性が高まる。</p>								
課題等	各自、テーマに応じてに応じて適宜指示する。提出はTEAMSにより行う。								
事前事後学修	各自、テーマに応じてに応じて適宜指示する。用意した資料は、予めTEAMS上にアップロードする。								
教材教科書参考書	各自、必要に応じて適宜指示する。								
留意点	<p>専門演習 I 及び専門演習 II は、卒業論文等を作成するため、原則同一教員の専門演習に2年間所属することを前提に演習を行います。その為、私の専門演習 I 及び II を希望する人は、履修に関する相談を新年度授業開始までに十分に私と行うようお願いします。履修相談なく履修登録した場合、履修を認めませんので注意して下さい。</p>								